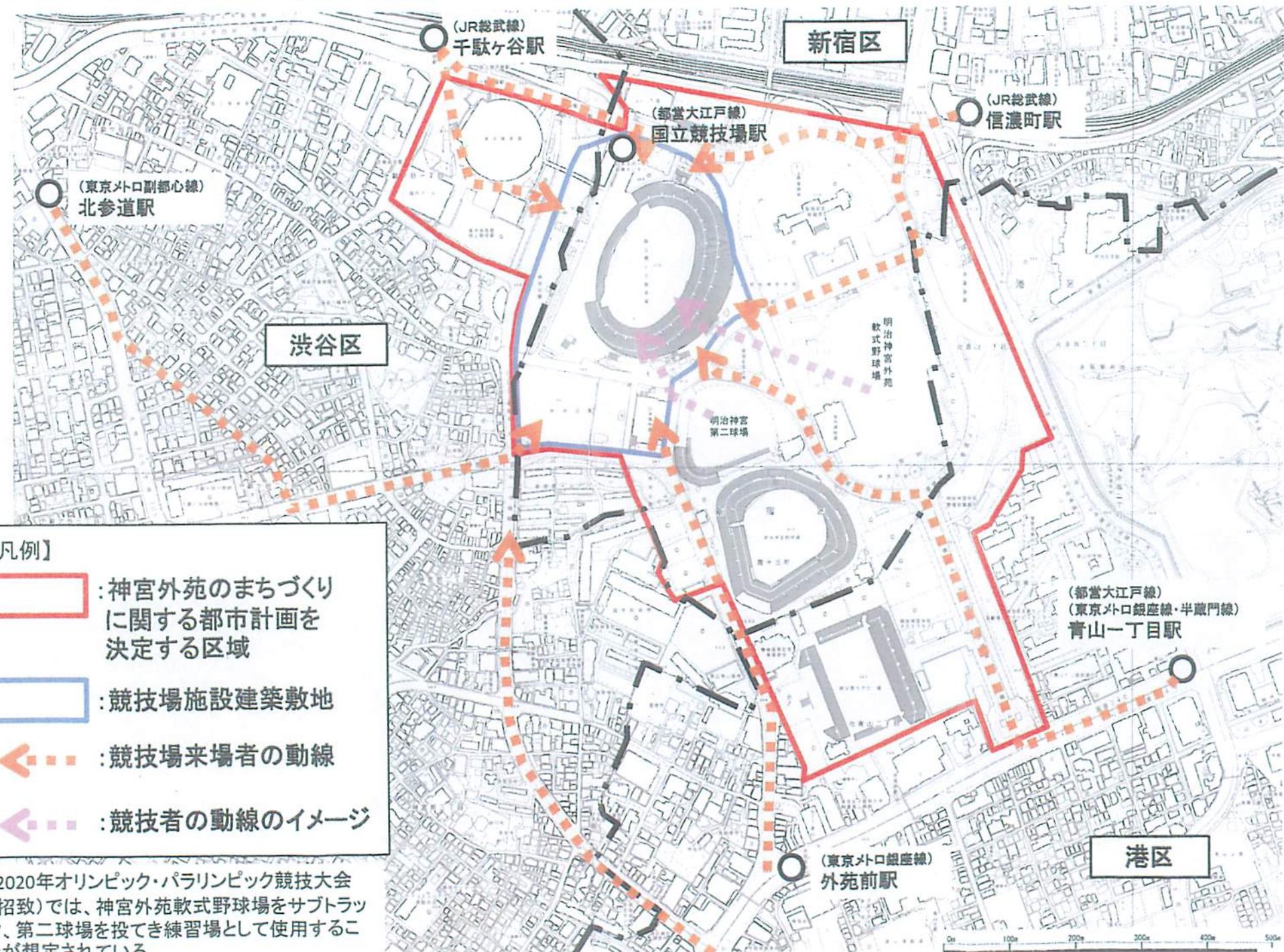


■都市計画の見直しと競技場施設建築敷地(案)

参考資料 3



施設区分		施設区分		施設区分		施設区分		施設区分		施設区分		施設区分	
施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分	施設区分
ホスピタリティ施設	・お客様用室に含む ・スパンサー等のバルコニー席が付いた 田舎形式の複数ボックス	\$925,000m ²	2,100m ²	(700m ²) お客様用室に含む	日生スタジアム ・イナラクション、スクリーン ・エンターテイメント	2,700m ²	27,300m ²	24,100m ²	・タッカー（スタジアム側面）	・タグビニ	・タグビニ	・タグビニ	施設運営グループ
VIP/WIP室	・VIP用のラウンジ、レストラン、飲食スペース等 ・WIP用等 ・トイレ、会場、ロ下等	\$925,000m ²	2,100m ²	800m ²	5,300m ²	8,900m ²	-	-	-	-	-	-	施設運営グループ（スポーツ、文化）
共用部	・貴賓本部 ・貴賓会場等 ・貴賓・消防室等	\$91,000m ²	100m ²	700m ²	400m ²	22,000m ²	400m ² の裏用スペース ・トイレ等	15,200m ²	-	-	-	-	施設運営
販賣管理施設	・販賣本部 ・販賣会場等 ・貴賓・消防室等	\$91,000m ²	100m ²	700m ²	1,500m ² 14,500m ² を含む	15,200m ²	-	-	-	-	-	-	施設運営
販賣管理施設	・博物館、図書館等	\$921,000m ²	8,800m ²	17,400m ²	1,300m ²	400m ²	-	-	-	-	-	-	・博物館等スペースは全体の1/7~1/4
スポーツ機能部門	・スポーツに囲まれる社内広い兼用施設の周辺等の施設	\$921,000m ²	1,400m ²	300m ²	900m ²	900m ²	400m ² のオフィス等(会員)	-	-	-	-	-	施設運営
スポーツ施設部	・スポーツに囲まれる社内広い兼用施設の周辺等の施設 ・スポーツ会場としてのアンテナショナル等 ・トレーニングセンター	\$921,000m ²	7,400m ² (会員等、アーバン等)	17,100m ²	400m ²	400m ²	-	-	-	-	-	-	施設運営
共用部	・トイレ、会場、ロ下等	\$935,000m ²	4,500m ²	14,200m ²	6,700m ²	25,600m ²	-	-	-	-	-	-	施設運営
施設運営部	・会場運営に係る本部機能	\$935,000m ²	4,500m ²	3,000m ²	6,700m ²	25,600m ²	-	-	-	-	-	-	施設運営
各種施設運営部	・会場運営 ・防災センター、説教センター、消防センター ・各種会場、会員等会場等	\$935,000m ²	11,200m ²	6,700m ²	25,600m ²	-	-	-	-	-	-	-	施設運営
各種施設運営部	・トイレ、会場、ロ下等	\$9244,000m ²	76,800m ²	151,300m ²	151,200m ²	198,600m ²	-	-	-	-	-	-	施設運営
各種施設運営部	・会場、中庭、メディア、展示用スペース、東口等	\$946,000m ²	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	・ロレッカー・車が駐用できる
医療施設		\$9290,000m ²	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※参考事例の施設面積は、図上計測。
※参考事例の施設面積は、スタジアム内のもののみである。外周面積及び建物面積はカウントしていない。

想定される諸室と規模(案)

参考資料2

※本必要面積想定は、都市計画上の容積率を考慮し、国際デザイン・コンクールのために国内外の先進的なスタジアムの事例を参考に作成したものであり、最終的な必要面積・面積については、12月にまとめる予定の基本計画において決定する。

新国立競技場			参考事例				要望・関連規定		施設建築グループ 施設利用グループ（スポーツ・文化）目録	
種別	諸室	必要面積	現国立競技場	日産スタジアム	トヨタスタジアム・スタジアム	ウェンブリー・スタジアム	サッカー（スタジアム標準）	ラグビー	陸上競技（第1種）	
競技等機能		約32,000m ²	21,300m ²	26,700m ²	14,600m ²	11,700m ²				
競技場等	・ラグビー、サッカー、陸上競技を実施 ・コンサート等のイベントを実施	約22,000m ²	17,900m ²	20,900m ²	14,600m ²	11,700m ²	ピッチ: 105m × 62m 芝面(多目的): 108m × 71m チームベンチ: 透明屋根付き 22人以上(固定式)		トラック: 8レーン又は9レーン 障害物競争の水盤は レーンの外側に設置 投げき芝生: 106m × 63m	
競技関連諸室	・練習用走路（バックスタンド下） ・トイレ、倉庫、廊下等	約10,000m ²	3,400m ²	5,600m ²	-	-			・メンテナンス機械倉庫600m ² 以上 倉庫: 2か所以上合計500m ² ・メンテナンス事務室50m ² 以上	
競技等関連機能		約15,000m ²	4,100m ²	7,900m ²	2,300m ²	9,200m ²				
競技者等関連諸室	・選手更衣室、シャワー室、控室等 ・ウォーミングアップスペース ・監視室 ・トレーニングルーム ・チームバス等専用出入口、駐車スペース (駐車場面積に含む) ・コンサート等のイベント関係室等						150m ² × 2室（4室を推奨） 100m ² × 2か所 24m ² × 2室		300人以上	・120m ² × 2（直概念図より算出）
医務、アンチドーピング諸室	・医務室 ・ドーピングコントロール室等	約15,000m ²	4,100m ²	7,900m ²	2,300m ²	9,200m ²	50m ² 36m ² × 1室			・合計620m ²
運営管理関連諸室	・運営本部室、会議室等 ・記者室 ・係員控室、操作室等 ・審判更衣室、審判ウォーミングアップスペース ・コミッショナールーム ・写真料定室等						200m ² 18m ² × 1室 24m ² × 2室 24m ² × 1室			・同時通訳ブース、映像情報・ 監視情報・収集分析室、 放送室等、最低9室
共用部	・トイレ、倉庫、廊下、各部室等									
競買機能		約111,000m ²	35,600m ²	60,400m ²	63,300m ²	114,200m ²				
観客席	・収容: 地上で8万人+ラグビー、サッカーで座席数 あふれる状況（パリアフリー対応席、VIP、記者席 を含む）、通路	60,000席 約46,000m ²	50,339席 25,700m ²	72,327席 41,300m ²	82,000席 37,200m ²	90,000席 (ワールドカップ) 49,200m ²			60,000席 (オリンピック)	60,000席以上
競買等関連施設	・入場口、チケット売り場、総合案内所等 ・救護室 ・託児室、授乳室 ・トイレ、喫煙スポット、通路等	約55,000m ²	9,800m ²	37,000m ²	51,200m ²	55,000m ²				・ファミリーラウンジ700m ² 程度 ・ファミリーポイント、託児所、 キッズスペース、授乳室の設置
飲食、物販	・レストラン、売店	約10,000m ²	100m ²	2,100m ²	9,800m ²	10,000m ²				
メディア機能		約4,000m ²	300m ²	1,300m ²	700m ²	3,400m ²				
記者席、放送席	・報客席面積に含む		(300m ²) 報客席面積に含む	(200m ²) 報客席面積に含む	(400m ²) 報客席面積に含む	(600m ²) 報客席面積に含む	400m ²			
メディア関連諸室	・記者等の作業スペース、カフェラウンジ、控室等 ・実況放送スタジオ等							5か所以上		
会見室	・会見場 ・ミックスゾーン	約4,000m ²	300m ²	1,300m ²	700m ²	3,400m ²		100m ² 200m ²		
共用部	・トイレ、倉庫、廊下等									
放送関係車用スペース	・中継車等放送関係車用スペース (駐車場面積に含む) ・メディア用駐車場等 (駐車場面積に含む)								・20クラスの中継車12台分	

要望			要望への対応		
番号	項目	内容	デザイン・コンクールの与条件	基本設計の与条件	必要な検討内容
17	会場設営・撤去に留意したスタジアム	コンサート時に施設内、または近隣で30~40台の大型車両が待機できるスペースが確保されていること		●	基本設計・実施設計で検討
		搬入後横材のストックヤードとなるスペースが確保されていること		●	基本設計・実施設計で検討
		グラウンドレベルからスタンド最上階へ横材が搬入できるEVが設置されていること		●	基本設計・実施設計で検討
		50tレッカーが使用できること(望ましい)		●	基本設計・実施設計で検討
		40~50tの吊り物ができるグリッド、屋根となっていること		●	基本設計・実施設計で検討
18	イベント実施に留意したスタジアム	ステージ位置を選ばない構造となっていること		●	基本設計・実施設計で検討
		花火が上げられるスペースが確保されていること		●	運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
		出演者、スタッフ等が地下を使って逆サイドに出られる動線があること		●	運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
		200Vの動力電源が確保されていること		●	基本設計・実施設計で検討
19	★今後の検討事項	ケーブルの引き回しの必要がないように、配電盤やケーブル配線が工夫されていること		●	基本設計・実施設計で検討
		スポーツWGと連携を密にしながら、設計・建設に向けて施設WGと調整を図り、プロジェクトを推進すること		●	
		イベントの開催規模・開催数		●	
		音響、映像、設備の設計上配慮すべき点		●	
		チケット販売、物販の考え方		●	
		トイレ等アメニティ		●	
		イベント開催にあたって各室の配置・仕様、動線		●	

2 施設利活用グループ(文化)からの要望の整理

要望			要望への対応		
番号	項目	内容	デザイン・コンクールの与条件	基本設計の与条件	必要な検討内容
1	コンサートやイベント会場等、文化・芸術の発信基地として多角的に活用できるスタジアム	8万人の観客の誰もが一体感を満喫できる空間であること	●		
2	「技術立国」日本の証を示すスタジアム	アジア、世界一を目指して、子どもたちに夢のあるスタジアムであること	●		
3	最新映像技術の導入に対応したスタジアム	今後の技術進歩に対応できる冗長性をもっていること(チケットの電子化、最新技術の導入)(例:スーパーハイビジョンや立体ハイビジョン等、横幅100メートルの巨大スクリーン、ハイブリッドキャスト、大規模宇宙プラネタリウム)		●	導入する技術は、基本設計・実施設計で検討
4	世界規模のアーティストのコンサート、展覧会、ファンシーショー等のイベントが開催できるスタジアム		●		
5	行事がないときにも利活用できるスタジアム	オリンピックミュージアムとして整備・活用すること	●		規模や仕様等は、基本設計で検討
		小・中・高生を対象とした教育の場として活用すること	●		運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
		修学旅行生を取り込むこと	●		運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
		観光客・外国人の観光スポットとなること	●		運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
		外部からも利用できる飲食施設を設置すること	●		運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
6	開閉式の屋根を持つスタジアム		●		
7	世界的コンサートを開催するのにふさわしい音響環境を持つスタジアム		●		
8	コンサート時に周囲への音の問題が生じないスタジアム		●		
9	4万人規模のイベント時でも臨場感があるスタジアム		●		
10	バリアフリーに配慮したスタジアム	障がい者が駅から容易にアクセスできて、安心して見られること	●		
		視覚障がい者に対して中継音声が活用できること	●		基本設計・実施設計で検討
		聴覚障がい者にボディーソニックで音を感じる座席を設置すること	●		基本設計・実施設計で検討
11	災害拠点としてのスタジアム	災害時の避難所として活用できること	●		
12	世界水準のホスピタリティを備えたスタジアム	観客、出演者、運営スタッフが利用しやすい機能を有していること	●		
		コンサート利用にあたって、スポーツとは異なる利用内容(楽屋、控室、メイク室等)に対応していること	●		運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
13	8万人規模のイベント時の動線計画が考えられたスタジアム	最寄り駅から競技場まで雨に濡れずに移動できること	●		
		8万人が速やかにスタジアムを後にできる計画であること	●		
14	イベント設営を容易に行えるスタジアム	大型車両の搬出入が考慮されていること(4方向が望ましい)	●		基本設計・実施設計で検討
15	大規模イベントの実施に対応したスタジアム	イベント内容に応じて、必要十分なトイレが設置されること	●		基本設計・実施設計で検討
		芝生の育成、養生に対応できること	●		基本設計・実施設計で検討
		スタジアム内、アクセス途中においても物販が行えること	●		運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
16	環境にやさしいスタジアム	太陽光発電パネルの設置等、自然エネルギーを利用できること	●		

要望			要望への対応		
番号	項目	内容	デザイン・コンクールの与条件	基本設計の与条件	必要な検討内容
21	競技場の設計における留意点等	観客用の医務室、給仕、警備担当者のエリアが確保されていること	●	規模、仕様等は、基本設計で検討	
		選手、レフリー、ドーピング検査の動線が分離されていること	●	規模、仕様等は、基本設計で検討	
		フーリガン対策として観客個人の判別が可能なテレビ監視システムが導入されていること	●	規模、仕様等は、基本設計で検討	
		風を考慮した設計であること	●	基本設計で検討	
		サブトラック、投げき練習場がメインスタジアム至近に設置され、同軸線上であること	-	-	現時点では、公園空地等の確保が求められているため、サブトラックが計画敷地に設置できない
		マラソンゲートが設置されていること	●		
22	★今後の検討にあたって	競技ごとの仕様、運営、管理、その他様々な視点から、今後の設計にあたって調整すること	●		
		文化WGと連携を密にしながら、設計・建設に向けて施設WGと調整を図り、プロジェクトを推進すること	●		
		各委員からの「新国立競技場に将来的に必要な事項」の意見を参考とすること	●		

要望			要望への対応		
番号	項目	内容	デザイン・コンクールの与条件	基本設計の与条件	必要な検討内容
15	オリンピック・パラリンピック招致を実現するスタジアム	収容人数が8万人以上であること	●		
		常設・仮設を問わずサブトラック、投げ練習場があること	-	-	現時点では、公開空地等の確保が求められているため、サブトラックが計画敷地に設置できない
		サブトラックはスタジアムの至近に設置し、軸線を揃えること	-	-	現時点では、公開空地等の確保が求められているため、サブトラックが計画敷地に設置できない
		VIP、ホスピタリティエリアが他の大規模国際大会よりも広く確保されていること	●	-	計画敷地内で対応できないものがある
		スタジアム内外に間わらず、客滞まり空間、駐車場、メディアコンパウンド、運営施設等のスペースが近くにあること	●	-	計画敷地内で対応できないものがある
		競技セッションごとに観客が入れ替わるため、10数万人相当の客滞まり空間があること	●		
16	サッカーワールドカップ招致を実現するスタジアム	観客、選手、VIP、メディア、運営等の動線が明確に分離していること	●		
		ホスピタリティビレッジ、メディアセンター、中継車エリア、ボランティアセンター、アクリティテーションセンター、駐車場等、必要に応じて用地が拡張できること	●		
17	パラリンピックが開催できるスタジアム	車椅子を積んだトラックが同時に複数停車できる十分なスペースが選手動線近くに確保されていること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		連絡通路の幅、勾配、EV等、動線に十分な配慮がされていること	●		
		ロッカールーム、トイレ等に配慮されていること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
18	国立競技場として観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム	ファミリーボックス、授乳室、託児所、キッズスペースが設置されていること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		観客席からの転落防止柵が設置されていること		●	仕様等は、基本設計で検討
		女性用トイレが充実していること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		観客用救護施設が充実していること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
19	多機能型のスタジアム	多様な利活用形態によって年間を通じて稼働率を高め、収益性を高めること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		音楽会、コンサート等の利用に対して、音響等設計上の配慮を行うこと	●		
		レストラン、宿泊施設、フィットネスクラブが併設されていること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		スポーツのすばらしさを伝えるスポーツ博物館・図書館が整備されていること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		国立競技場ツアーを実施すること		●	運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
		壁画や彫刻を配置し、文化的な観点にも配慮していること	●		現有する芸術作品、競技場のレガシー等の活用を求める
20	アンチ・ドーピングに対応したスタジアム	ドーピング検査に必要な部屋が確保されていること(待合室、作業室、採尿室、採血室、事務室、シャワーブース)	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		プライバシーの確保、検査室での視聴の快適性、動線に配慮されていること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討

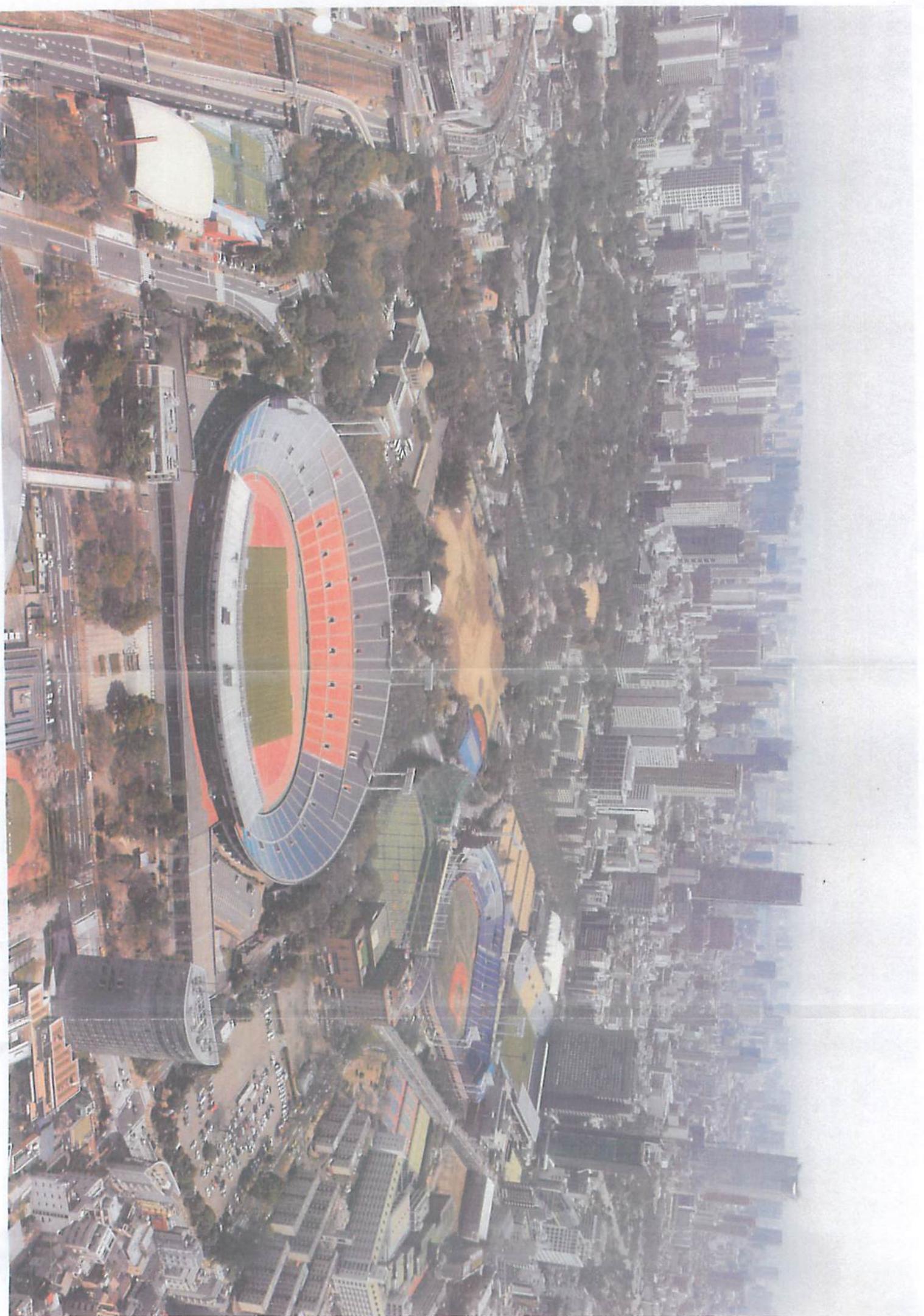
要望			要望への対応		
番号	項目	内容	デザイン・コンクールの与条件	基本設計の与条件	必要な検討内容
11	災害拠点としてのスタジアム	災害時の避難所、備蓄倉庫として活用できること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		通信体制が完備されていること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
12	世界水準のホスピタリティを備えたスタジアム	観客、選手、運営スタッフが利用しやすい機能を有していること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		全ての観客・関係者の座席を覆う屋根があること	●		
		悪天候時でも試合前後の時間を快適に過ごせること(外気を遮断したコンコース、温熱座席等)		●	導入する機能、仕様等は、基本設計で検討
		開門前、チケット購入時にスタジアム外に並んでいる観客へ配慮されていること		●	導入する機能、仕様等は、基本設計で検討
		メインスタジアム以外にも選手との触れ合いが可能な構造であること		●	運営面を含めて基本設計・実施設計で検討
		競技場から世界に向けて発信できるようなWi-Fi環境が充実していること		●	仕様等は、基本設計・実施設計で検討
		プライベートを守るエリアがあること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		礼拝ができる空間があること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		治療エリアがあること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		選手と指導者を分ける仕切りがあること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		女性用アメニティ(トイレ、姿見)が充実していること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		試合後にチーム・個人が家族と交流できるスペースが確保されていること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		必要諸室の確保および放送、競技会実施のためのインフラが整備されていること(同時通訳ブース、情報収集分析室、放送室、カメラ設置スペース、ケーブル・電源への配慮、機材搬入ルートの確保と搬入エレベータ)	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		国賓・要人が集う社交ラウンジの機能を有すること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		ホスピタリティラウンジ、ビジネスラウンジを有すること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
13	環境にやさしいスタジアム	観客、VIP、ロイヤルファミリー、メディア、ドーピングの動線が分離されていること		●	配置、規模等は、基本設計で検討
		ミックスゾーンを設置し、メディアの動線も考慮されていること		●	配置、規模等は、基本設計で検討
		企業向けボックスシートが設置されていること		●	規模、仕様等は、基本設計で検討
		大型車両の搬出入が考慮されていること	●		
		経済性と環境政策の両立が実現できること	●		
14	動線計画が考へられたスタジアム	太陽光発電パネルの設置等、自然エネルギーを活用すること	●		
		雨水・中水の貯水、再利用がされること	●		
		ごみの削減のためにリユース食器を使用すること	●		
		電力に頼らない夏期の冷却システムを導入すること	●		
		最寄り駅から競技場までの観客動線が考えられていること	●		
		8万人が速やかにスタジアムを後にすることができる計画であること	●		
		最寄り駅からのアクセスが外国人にもわかりやすいこと	●		計画敷地外は、道路管理者や交通管理者との協議・調整が必要
		最寄り駅の改札口まで雨に濡れずにいけること(望ましい)		●	計画敷地外は、道路管理者や交通管理者との協議・調整が必要

施設利活用グループ（スポーツ）と施設利活用グループ（文化）からの要望の整理（案）

参考資料1

1 施設利活用ワーキンググループ（スポーツ）からの要望の整理

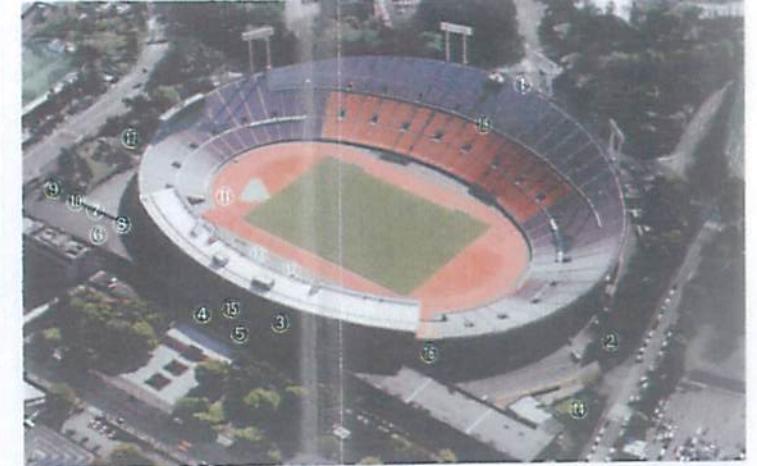
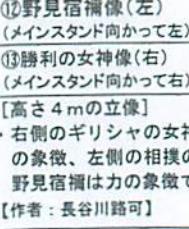
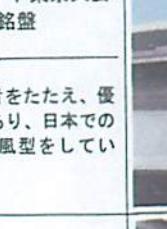
要望			要望への対応		
番号	項目	内容	デザイン・コンクールの与条件	基本設計の与条件	必要な検討内容
1	スポーツの聖地である国立競技場として、日本が世界に誇れる、世界が憧れる、国民に愛されるスタジアム	国家事業として、国民が誇れるものをつくること	●		
2	「技術立国」日本の証を示すスタジアム	20~30年後の技術にも対応できること	●		導入する技術は、基本設計・実施設計で検討
3	最新映像技術の導入に対応したスタジアム		●		導入する技術は、基本設計・実施設計で検討
4	オリンピック・パラリンピックのメインスタジアム		●		
5	サッカーワールドカップ、サーカークラブワールドカップを開催できるスタジアム		●		
6	ラグビーワールドカップを開催できるスタジアム		●		2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップの決勝の会場となる
7	世界陸上競技大会を開催できるスタジアム		●		現時点では、公開空地等の確保が求められているため、サブトラックが計画敷地に設置できない
8	スタジアム内外がバリアフリーなスタジアム	高齢者・障がい者が駅から容易にアクセスすることができるこ	●		計画敷地外は、道路管理者や交通管理者との協議・調整が必要
		車椅子来場者が安心して見られること(車椅子席、専用リフト、トイレが必要数完備されている)	●		計画敷地外は、道路管理者や交通管理者との協議・調整が必要
		視覚障がい者専用席でヘッドホンによる実況放送を聴けること		●	基本設計・実施設計で検討
		縦文字を利用したわかりやすい案内表示であること		●	基本設計・実施設計で検討
		少子高齢化が進むことに配慮したスタジアム設計であること	●		
9	スポーツ文化としてのスタジアム(臨場感あふれるスタジアム)	陸上とサッカー・ラグビーが共存できるようにトラックを可動席で囲うことができる構造であること	●		規模や仕様等は、基本設計で検討
		競技の特性を活かし、感動を最高に引き出せる劇場空間であること	●		
		日中、ナイター、競技の違いにより、適切な照度が出せる照明が設置されていること	●		仕様等は、基本設計で検討
		観客席と競技場の間に窓をつくらず、安全・安心が確保された構造であること		●	仕様等は、基本設計で検討
		屋根等による影の位置を考慮し、競技上不利にならない構造であること	●		
10	スポーツ文化としてのスタジアム(良いプレーを行うための環境づくり)	最高の芝生コンディションを保つ環境が確保されること(太陽光、風、雨、温度、土壤力)	●		芝の仕様等は、基本設計で検討
		屋根が芝生の管理の障害にならないこと	●		
		サッカー・ラグビーに対応した芝生面積が確保されること(陸上競技場より大きなサイズが必要)		●	基本設計で検討
		アリーナからトラック内側までの地下道が設置されていること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		スタンド下部が車で移動できる構造であること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討
		不具合に迅速に対応できる設備・メンテナンススペースが充実していること	●		規模、仕様等は、基本設計で検討





国立競技場の芸術作品・記念作品一覧

※台座のある彫刻等の高さ表記は、台座を含む概ねの寸法である。

<p>①聖火台 (パックスタンド中央) [高さ 2.1m、直径 2.1m] ・1958 年の建設の際、聖火台は設計者・角田栄ら 4 名によって行われ、製作は美術鋳造の名工・鈴木万之助と 3 人の息子たちが担当した。</p> 	<p>②無題 (代々木門入り右) [高さ 2.8m] ・大理石を使用した水泳のスタート像で、くりぬかれた部分にも女子選手の立像が見える。 【作者：三井泉】</p> 	<p>③よろこび (正面玄関の右脇壁面) [縦 6.2m × 横 3.6m] ・玄関入口なので、明るくはあるが派手すぎないようにガラスモザイクを使用した。寄贈者がカメラ会社なので、レンズの形を程度取り入れてデザインした。 【作者：寺田竹雄】</p> 	<p><国立競技場芸術作品設置位置></p> 
<p>④健康美 (正面玄関向かって左) [高さ 3.0m] ・長崎にある「平和祈念像」は彼の代表作のひとつである。</p> 	<p>⑤青年像 (正面玄関向かって右) [高さ 4.0m] ・1956 年の作品。明治、大正、昭和を通じ、日本の彫塑界を先導した芸術家である。</p> 	<p>⑥波 (千駄ヶ谷門入り右) [高さ 4.0m] ・大正から昭和にかけて日本の彫刻界の重鎮として活躍した作家。徹底した写実態度を示しており、作風は常に堅実である。</p> 	
<p>⑦槍投げ像 (マラソン門入り左) [高さ 3.4m] ・大正、昭和に活躍した作家で、この像是第 15 回帝展の特選となった作品である。槍の鉗先は国立競技場に向かっている。</p> <p>【作者：雨宮治郎】</p> 	<p>⑧円盤投げ像 (千駄ヶ谷門入り左) [高さ 2.8m] ・1964 年 1 月に「オリンピック 1964 年展」を西武百貨店で開催した時、ローマ国立博物館より取り寄せた実物の型抜き。</p> <p>【作者：ミロン】</p> 	<p>⑨出陣学徒の碑 (マラソン門入り右) [高さ 3.0m] ・1943 年 10 月 21 日、元・明治神宮外苑競技場（現・国立競技場）では、東京周辺 77 校が参加して「出陣学徒社行会」が折からの秋雨をついて挙行された。</p> 	<p>⑩同期の櫻 (「出陣学徒の碑」横) ・学徒出陣 50 周年記念として、2003 年 10 月 21 年に染井吉野が植樹された。</p> 
<p>⑪野見宿禰像(左) (メインスタンド向かって左) ⑫勝利の女神像(右) (メインスタンド向かって右) [高さ 4 m の立像] ・右側のギリシャの女神像は美的象徴、左側の相撲の元祖・野見宿禰は力的象徴である。</p> <p>【作者：長谷川路可】</p> 	<p>⑬1967 年ユニバーシアード東京大会優勝者銘盤 (代々木門入り左) [縦 2.5m × 横 6.0m] ・各競技大会の優勝者をたたえ、優勝者名を刻印してあり、日本での大会を記念して屏風型をしている。</p> 	<p>⑭1991 年第 3 回世界陸上競技選手権大会優勝者銘盤 (南入場口向かい左) [縦 3.5m × 横 5.4m] ・この大会で優勝したカール・ルイスなどの名を散見することができる。</p> 	<p>⑮御者像 (スポーツ博物館入り口脇) [高さ 2.5m] ・第 11 回オリンピックベルリン大会で行われた芸術競技で金メダルを受賞した作品。古代オリンピックで行われていた馬車競技の御者をモチーフとしている。</p> <p>【作者：ファルビ・ビニョーリ】</p> 
<p>⑯回廊の大壁画 10 画 (パックスタンド回廊) [縦 7.8m × 横 8.2m] ・絵画景な回廊を美しくするために、陶片モザイクで描いた壁画である。それぞれ「勝利の場」「友愛」「より速く、より高く」などオリンピックやスポーツがテーマとなっている。</p> <p>【作者：小林凱全】</p> 			

周辺現況写真②



①千駄ヶ谷駅
・都道414号西側より千駄ヶ谷駅方面を見る
・左側にJR総武線の高架が見える



⑤都道418号/都道414号
・都道418号より都道414号を見る
・都道418号から都道414号へ道路高さが約4m上がる



⑨信濃町駅
・主要地方道319号南側歩道橋より信濃町駅を見る



⑩東京体育館交差点
・東京体育館交差点(都道418号)より東京体育館南側道路を見る



⑪日本青年館前交差点
・日本青年館前交差点より日本青年館東側道路を見る



⑫仙壽院トンネル
・西側より仙壽院トンネルを見る
・寺の敷地の下を道路が通る



⑬区道43-670
・秩父宮ラグビー場正門より日本青年館方面を見る



②東京体育館メインアリーナ
・東京体育館メインアリーナを北西側広場より見る



⑥国立競技場千駄ヶ谷門
・都道414号より国立競技場千駄ヶ谷門を見る



⑩国立競技場正門
・都道418号より国立競技場正門を見る



⑭観音橋交差点
・観音橋交差点(都道418号)より国立競技場代々木門前道路(区道43-660)を見る



⑮国立競技場青山門前交差点
・国立競技場青山門前交差点より日本青年館方面(霞が丘町交差点)を見る



⑯明治神宮第二球場
・明治神宮第二球場を正門より見る



⑰秩父宮ラグビー場
・秩父宮ラグビー場正門を見る



③東京体育館敷地
・東京体育館と東京体育館陸上競技場の間より国立競技場を見る



⑦明治神宮外苑アイススケート場
・明治神宮外苑アイススケート場を正面(都道414号)より見る



⑪都道418号
・都道418号より国立競技場と東京体育館を結ぶ横断橋を見る
・車両のメインアクセスとして想定



⑯仙壽院交差点
・仙壽院交差点より明治公園を見る
・明治公園では休日にフリーマーケットが開催される



⑯国立競技場青山門前交差点
・国立競技場青山門前交差点より都道414号を北側に見る



⑰明治神宮野球場
・明治神宮野球場を正門より見る



⑲国道246号線
・外苑前歩道橋より国道246号を見る



④外苑橋
・都道414号より東側に外苑橋を見る



⑤都道414号
・絵画館北側の都道414号より西側を見る



⑪東京体育館南側道路
・東京体育館南側道路より都道418号を見る



⑯日本青年館
・明治神宮第二球場前道路より日本青年館を見る



⑯聖徳記念絵画館
・聖徳記念絵画館を南側正面より見る

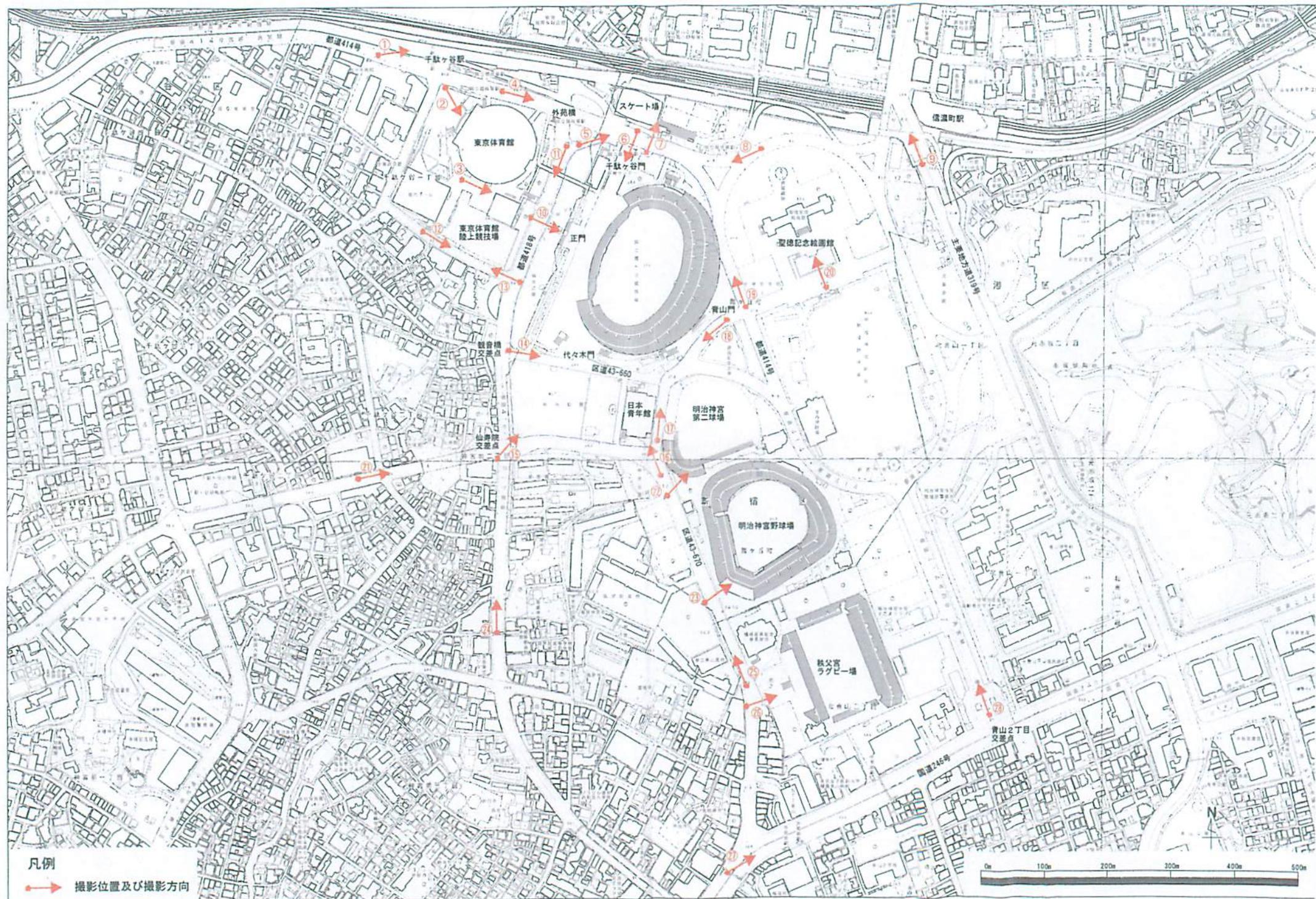


⑯都道418号
・都道418号南側歩道橋より北側を見る



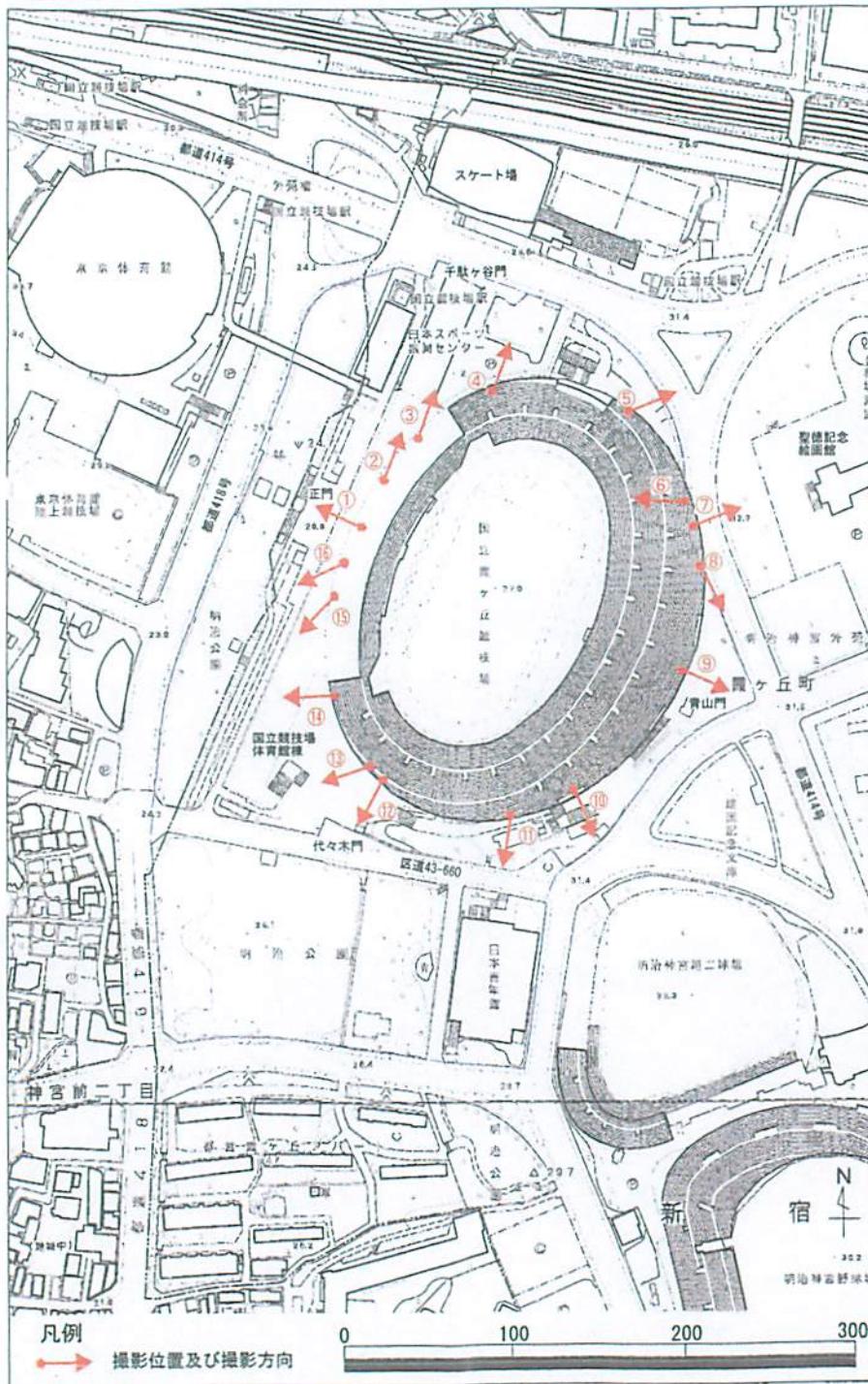
⑯聖徳記念絵画館
・青山2丁目交差点より聖徳記念絵画館(都道414号)を見る
・絵画館に向かって両側にイチヨウ並木が続く

周辺現況写真②



周辺現況写真①

※国立競技場上部より周囲を撮影



①国立競技場正門

- 手前に国立競技場正門、明治公園(西側)、都道414号を挟んで東京体育馆を見る



⑤都道414号交差点

- 都道414号交差点と交差点内に位置する明治神宮外苑の島状緑地を見る



⑨国立競技場青山門前交差点

- 手前に国立競技場青山門前交差点、その奥に聖徳記念絵画館敷地を見る



⑬国立競技場屋外コンコース階

- 国立競技場代々木門内駐車場しに屋外コンコース階段を見



②国立競技場北側斜路

- 手前に国立競技場北側斜路、左側に日本スポーツ振興センター、その奥に国立競技場千駄ヶ谷門を見る



⑥西側遠景

- 国立競技場越しに西側遠景を見る
- 右側奥は新宿のビル群



⑩明治神宮第二球場

- 明治神宮第二球場を霞ヶ丘町交差点越しに見る



⑭国立競技場体育馆棟

- 手前に国立競技場体育馆棟(上部に屋外コンコース)、その奥に明治公園(西側)を見る



③国立競技場千駄ヶ谷門

- 手前に国立競技場千駄ヶ谷門、その奥に都道414号を挟んで明治神宮外苑アイススケート場を見る



⑦聖徳記念絵画館

- 聖徳記念絵画館を都道414号越しに見る



⑪日本青年館

- 日本青年館を国立競技場代々木門前道路(区道43-660)越しに見る



⑯体育馆棟/明治公園(西側)

- 国立競技場体育馆棟上部屋外コンコース越しに明治公園(西側)を見る



④明治神宮外苑アイススケート場

- 都道414号越しに明治神宮外苑アイススケート場を見る



⑧都道414号

- 手前に国立競技場青山門前交差点、都道414号を挟んで左側に聖徳記念絵画館敷地、右側に明治神宮第二野球場を見る



⑫国立競技場代々木門

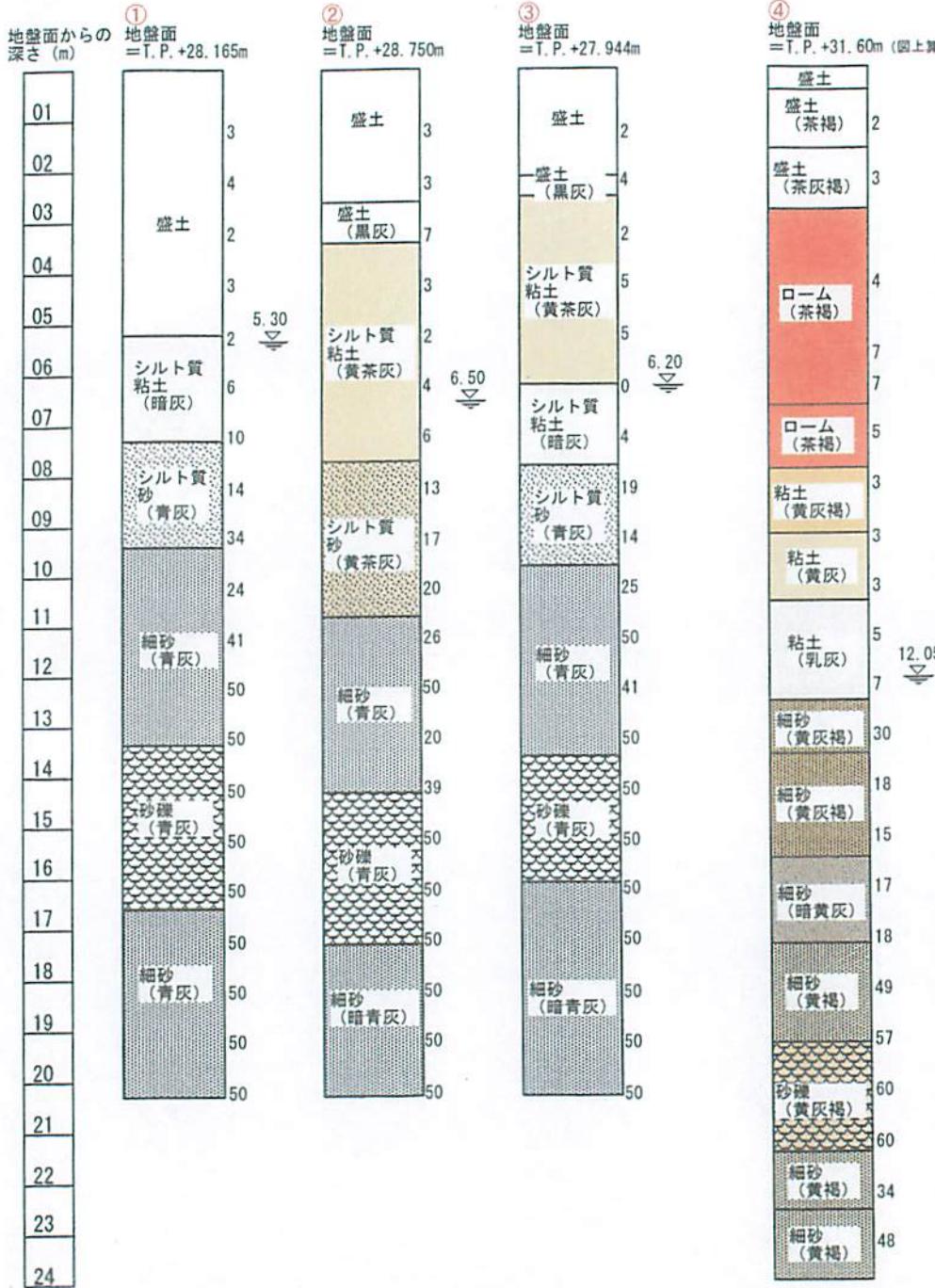
- 手前に国立競技場代々木門、区道43-660を挟んで明治公園(南側)休日にフリーマーケット開催を見る



⑯明治公園(西側)

- 明治公園(西側)を見る
- 明治公園(西側)の奥に都道414号が通る

地質柱状図



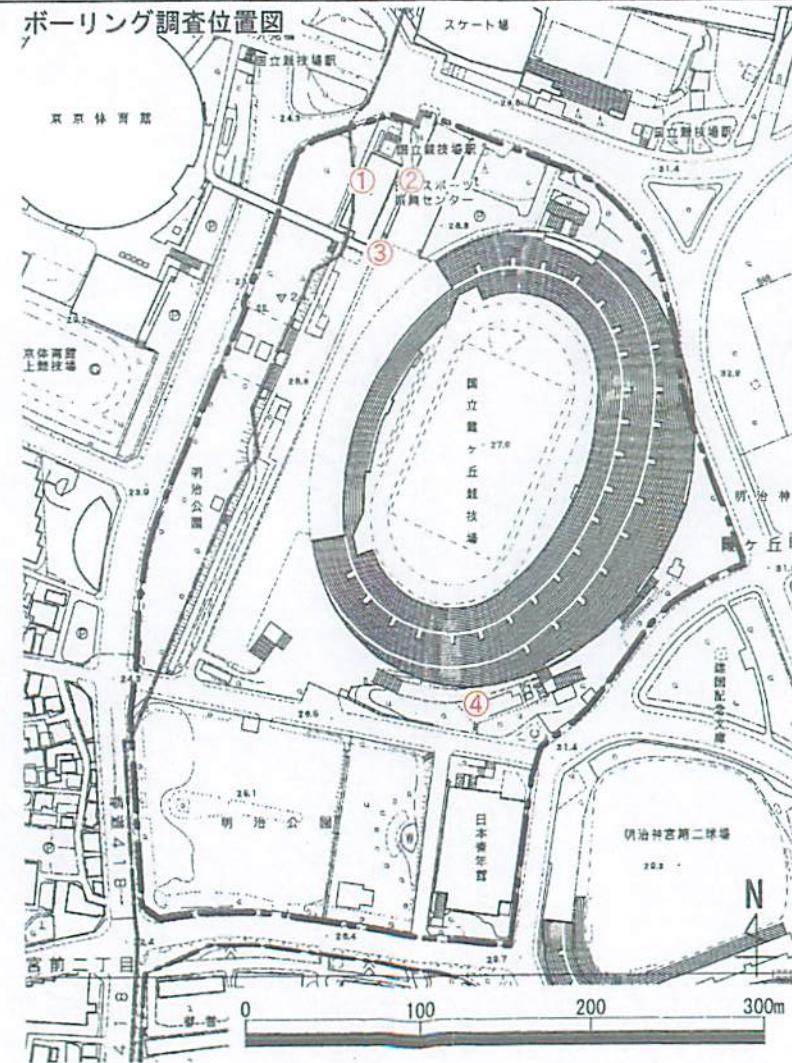
【凡例】

- ④ 調査地点番号（下図参照）

地盤面 ← 調査地点の地盤面
= T.P. ← T.P. (Tokyo Peil) : 東京湾平均海面 (±0m) を基準とした標高

深度 (m)	地盤構成	土質名 (色調)	孔内水位	標準貫入試験 N値
0	シルト質粘土 (暗灰)			
4	シルト質粘土 (暗灰)	6.20	孔内水位 数値は地盤面からの 深さを示す。	
19	シルト質砂 (青灰)			
14				標準貫入試験 N値

ボーリング調査位置図



周辺交通現況図

●周辺歩道幅員

図中①から⑥までの主要道路（表示の箇所）の自動車交通量は左下表に示す。

①都道418号	3.50m	20.25m	3.50m	歩道	車線数：4	歩道	②都道418号	3.50m	20.25m	3.50m	歩道	車線数：4	歩道	③都道414号	3.70m	12.00m	3.70m	歩道	車線数：3	歩道	④都道414号	3.70m	12.00m	3.70m	歩道	車線数：3	歩道
歩道			車道				歩道			車道				歩道			車道				歩道			車道			

⑤都道414号	3.70m	15.00m	3.70m	歩道	車線数：4	歩道	⑥主要地方道319号	3.00m	20.00m	3.00m	歩道	車線数：4	歩道	⑦特別区道43-651	3.60m	11.30m	3.60m	歩道	車線数：2	歩道	⑧特別区道43-670	2.40m	10.00m	2.30m	歩道	車線数：2	歩道
歩道			車道				歩道			車道				歩道			車道				歩道			車道			

●鉄道

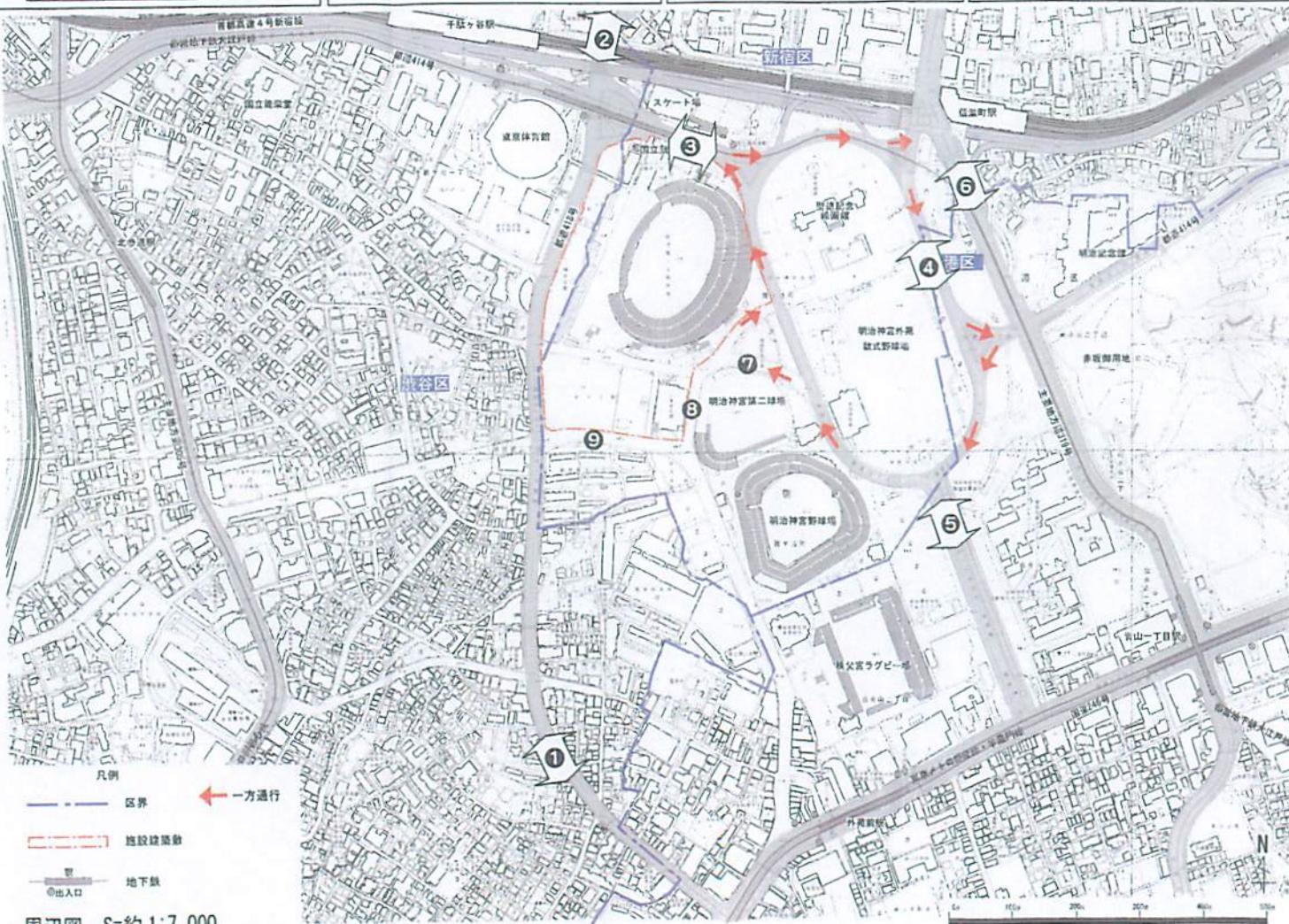
路線	周辺駅	乗降人數 [*] (人/日)
J R 中央線 (各駅停車)	千駄ヶ谷駅	乗 20,008
東京メトロ 銀座線	外苑前駅	74,123
東京メトロ 半蔵門線	青山一丁目駅	97,811
東京メトロ 副都心線	北参道駅	18,183
都営地下鉄 大江戸線	国立競技場駅	乗 5,166 降 5,169
	大江戸線 青山一丁目駅	乗 32,229 降 32,247

*JRは2011年度の一日前平均乗車数、都営地下鉄は2010年度、東京メトロは2011年度の一日前平均乗降人數

●主要道路

種別	路線	幅員 (m)	交通量 [*] (台/12H)
首都高速	高速4号新宿線	16	---
国道	国道246号	42	---
都道	都道418号 北品川四谷線	27	18,211[①] 12,964[②]
	都道414号 四谷・角筈線	19 ~23	7,401[③] 7,260[④] 6,321[⑤]
	主要地方道305号 芝新宿王子線	27	---
	主要地方道319号 環状三号線	26	21,985[⑥]

*交通量は図中番号の場所と対応、道路幅員は小数点以下四捨五入（平成22年度道路交通センサス）



気象条件等 (参考資料: 気象庁気象統計情報)

1 東京都の位置

・日本はアジア大陸の東端に位置する、南北に細長い列島（延長約 2,000km）であり、東京は日本のほぼ中央に位置（北緯35° 41'、東経139° 45'）している。

2 日別気温の月別平年値 (1964~2011年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日最高気温 (°C)	9.7	10.1	13.1	18.5	22.8	25.5	29.2	31.0	27.0	21.6	16.8	12.2
日平均気温 (°C)	5.7	6.2	9.0	14.4	18.8	22.0	25.6	27.2	23.5	18.2	13.1	8.3
日最低気温 (°C)	2.0	2.5	5.1	10.4	15.1	19.0	22.2	24.3	20.7	15.0	9.5	4.6

3 日別相対湿度の月別平年値 (1964~2011年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日相対湿度 (%)	49	51	55	61	65	72	74	72	71	66	60	52

4 月別降水量の平年値 (1964~2011年)

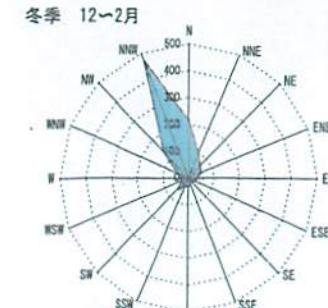
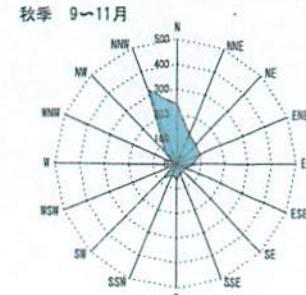
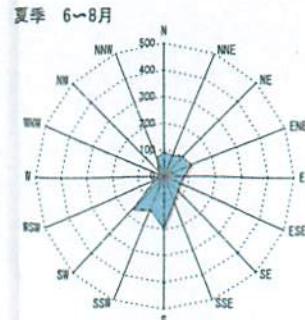
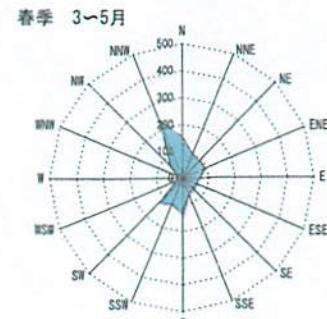
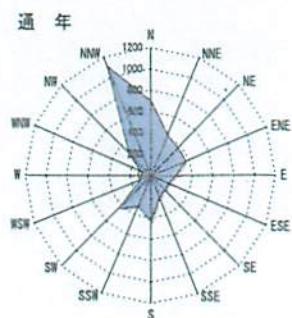
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量 (mm/月)	52.4	60.9	107.3	124	142.2	168	143.5	155.4	201.5	182.3	92.3	51.4

5 日照時間の平年値 (1964~2011年)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
日照時間 (h/月)	188.5	166	173.5	173.2	185.5	129.2	149.9	180.5	123.2	138.3	149	176.1

6 風向出現頻度 (回)

・風速 0.3m/s 以上の風向（観測前 10 分間の平均）の出現回数



7 観測史上 1~10 位の値 (年間を通じての値)

東京 (東京都)

要要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	合計期間
日降水量 (mm)	371.9 (1958/ 9/26)	278.3 (1939/ 6/29)	259.5 (1996/ 8/22)	234.5 (1993/ 8/27)	225.5 (1966/ 6/28)	222.5 (2004/10/ 9)	220.5 (1991/ 9/19)	215 (1981/10/22)	195 (1989/ 8/ 1)	193.7 (1920/ 9/20)	1875/ 6 2012/7
日最大1時間降水量 (mm)	88.7 (1939/ 7/31)	82.5 (2000/ 7/ 4)	78.1 (1960/ 9/ 1)	77 (1981/ 7/22)	76 (1953/ 9/20)	71.5 (1949/ 8/24)	70.5 (1935/10/27)	69.5 (2004/10/ 9)	69.2 (1911/ 8/10)	68 (2010/ 9/ 5)	1886/ 1 2012/7
日平均気温25°C以上年間日数 (日)	92 2010年	86 2004年	86 2000年	78 1999年	77 2011年	77 1994年	75 1990年	75 1975年	72 2005年	72 2001年	1951年 2012年
日最高気温30°C以上年間日数 (日)	71 2010年	70 2004年	67 2000年	66 1994年	66 1961年	65 1950年	63 1999年	63 1978年	63 1946年	62 1975年	1931年 2012年
日最大風速・風向 (m/s) (観測前10分間平均)	南 31.0 (1938/ 9/ 1)	南南東 27.7 (1917/10/ 1)	南 24.9 (1953/ 9/27)	南 24.7 (1949/ 8/31)	南 24.5 (1965/ 9/10)	南 22.8 (1966/ 9/25)	北北東 22.8 (1958/ 7/23)	北北東 22.7 (1945/ 8/22)	南 22.5 (1972/ 9/17)	南 22.5 (1955/ 3/18)	1875/ 6 2012/7
日最大瞬間風速・風向 (m/s)	南 46.7 (1938/ 9/ 1)	南西 40.2 (2004/12/ 5)	南 38.2 (1979/10/19)	南 37.2 (1965/ 9/18)	南 37.0 (1982/ 9/12)	南 37.0 (1950/ 9/27)	南 36.7 (1985/ 7/ 1)	南南東 36.5 (1966/ 9/25)	北北西 36.4 (1952/12/14)	北北西 36.1 (1995/ 9/22)	1937/1 2012/7
降雪の深さ日合計 (cm)	33 (1963/ 3/12)	33 (1954/ 1/24)	27 (1994/ 2/12)	27 (1953/ 2/21)	26 (1984/ 1/19)	26 (1978/ 1/ 3)	21 (1969/ 3/ 4)	21 (1982/ 1/15)	18 (1984/ 1/31)	17 (1966/ 2/19)	1953/1 2012/7
月最深積雪 (cm)	45 (1983/ 2/ 8)	38 (1945/ 2/22)	36 (1936/ 2/23)	33 (1951/ 2/15)	31 (1987/ 1/18)	31 (1969/ 3/12)	27 (1925/ 1/30)	27 (1982/ 2/19)	23 (1994/ 2/12)	23 (1968/ 2/16)	1875/ 6 2012/7

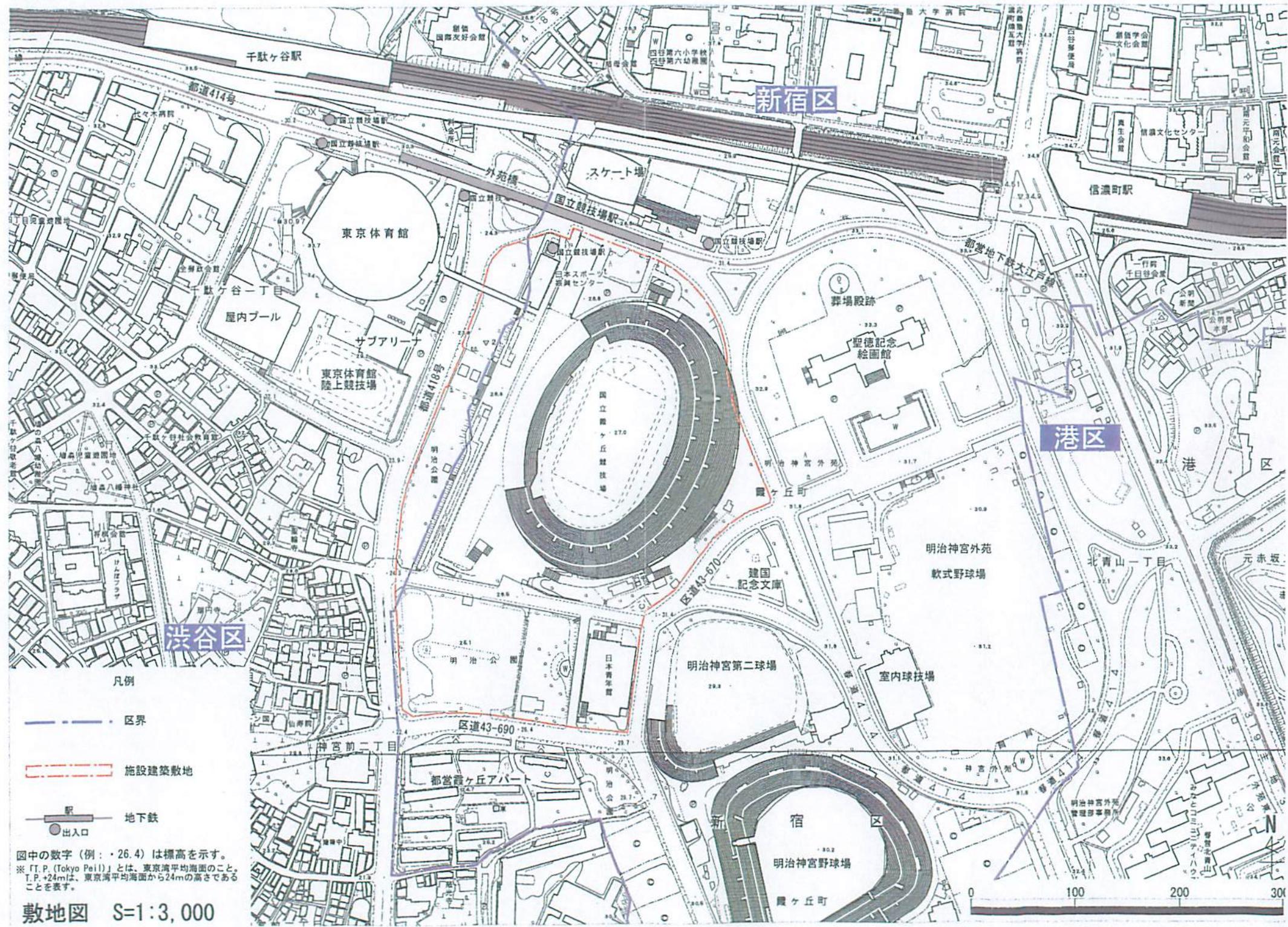
8 東京都の震度別地震回数 (回) 1962~2011年

震度	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	合計
1962~1971	991	567	177	35	14	0	0	0	0	1,784
1972~1981	921	419	164	34	3	0	1	0	0	1,542
1982~1991	1,414	680	230	49	6	0	0	0	0	2,379
1992~2001	11,742	3,505	965	260	22	7	6	0	0	16,507
2002~2011	1,512	556	169	39	2	2	0	0	0	2,280
合計	16,580	5,727	1,705	417	47	9	7	0	0	24,492
年平均	332	115	34	8	1	0	0	0	0	490

S 圖說

$S=1:5,000$





4. 工事費概算及び事業スケジュール

4.1 工事費概算

- ・ 総工事費は、 億円程度見込んでいる。ただし、以下の項目については、上記工事費には含まれない。
 - ①スタジアムの施設建築敷地以外の工事費
 - ②既存建築物の除去費
 - ③什器、備品類
 - ④コンピュータなどの機器類
 - ⑤利用休止に伴う諸費用
 - ⑥デザイン監修費・設計監理料

4.2 事業スケジュール

- ・ 設計期間及び建設工事期間は次のように見込んでいる。
 - ①基本設計期間：平成25年4月から平成26年3月
 - ②実施設計期間：平成26年4月から平成27年3月
 - ③建物解体期間：平成26年7月から平成27年10月
 - ④建設工事期間：平成27年10月から平成31年3月

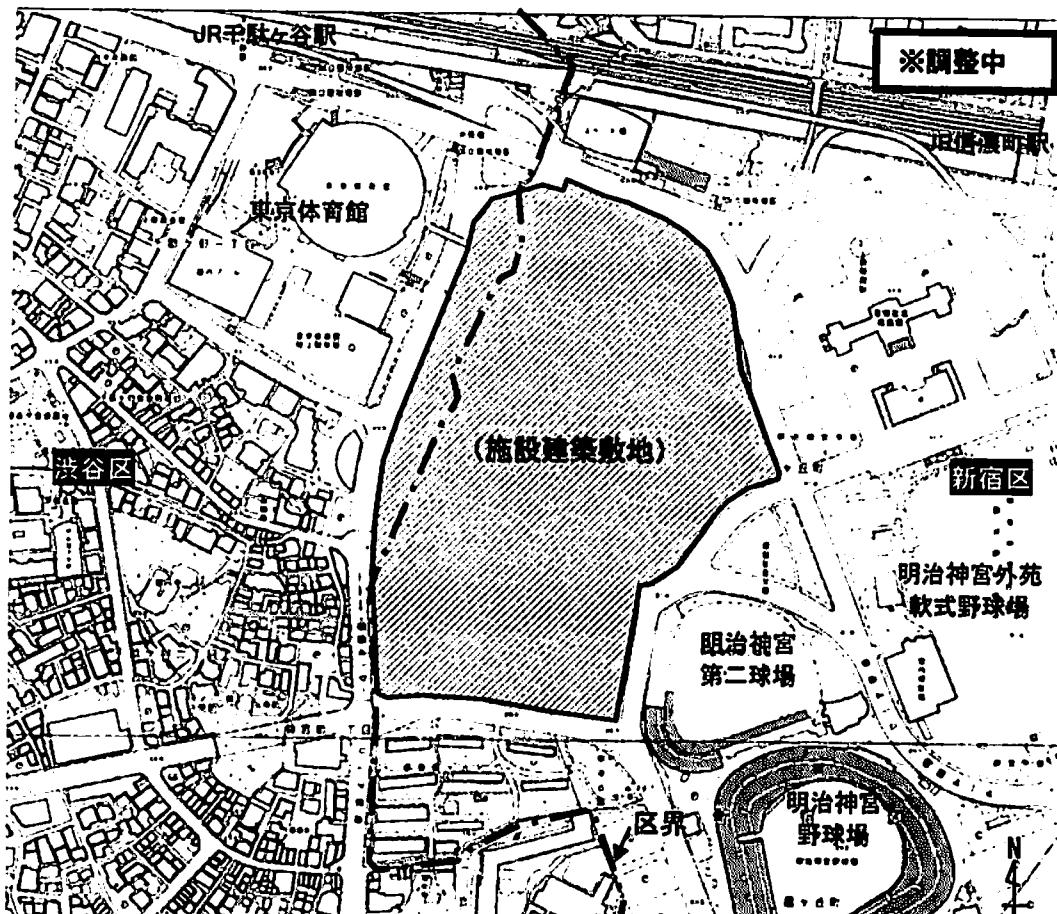


図5 公開空地整備対象範囲

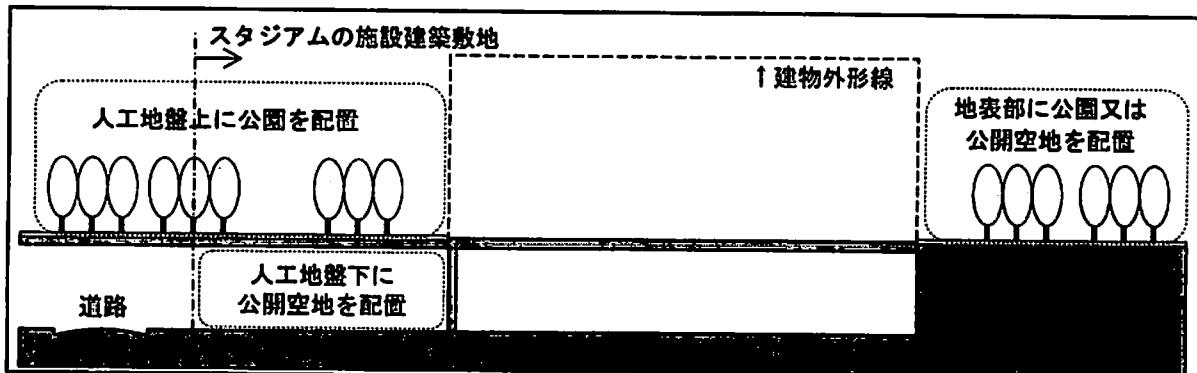


図6 公園と公開空地の立体的整備の例

3.5 緑化・環境配慮・防災対策

・上記以外に提案にあたり留意する事項は、以下に示すとおりである。

緑化:オープンスペース及び施設建築物の緑化に努める。

環境配慮:積極的に省エネルギー技術を導入するなど環境性の高い施設とするよう努める。

防災対策:計画対象範囲周辺一帯が災害発生時の広域避難場所であることを鑑み、災害発時における周辺の安全確保に貢献する計画とし、災害発時の施設活用(備蓄庫等)、電力の多重化措置など防災性の高い施設とするよう努める。

3.4 計画対象範囲内に確保する公園及び公開空地

- ・計画対象範囲には、公園及び公開空地を整備することが求められる。
- ・公園及び公開空地の整備に関する条件は以下に示すとおりである。

①既設公園の再配置

- ・計画対象範囲内には、既設の都立明治公園があり、スタジアム建設に伴い、都道418号以西を除く既設の公園（新宿区分：約22,000m²、渋谷区分：約12,000m²）と同規模以上の面積を、図4に示すそれぞれの区内に確保する必要がある。なお、東京体育館の敷地には、新たに公園を配置することはできない。
- ・公園の再配置に当たっては、可能な限り地表面で確保することにより、公園としての一体性・連続性に最大限配慮する必要がある。

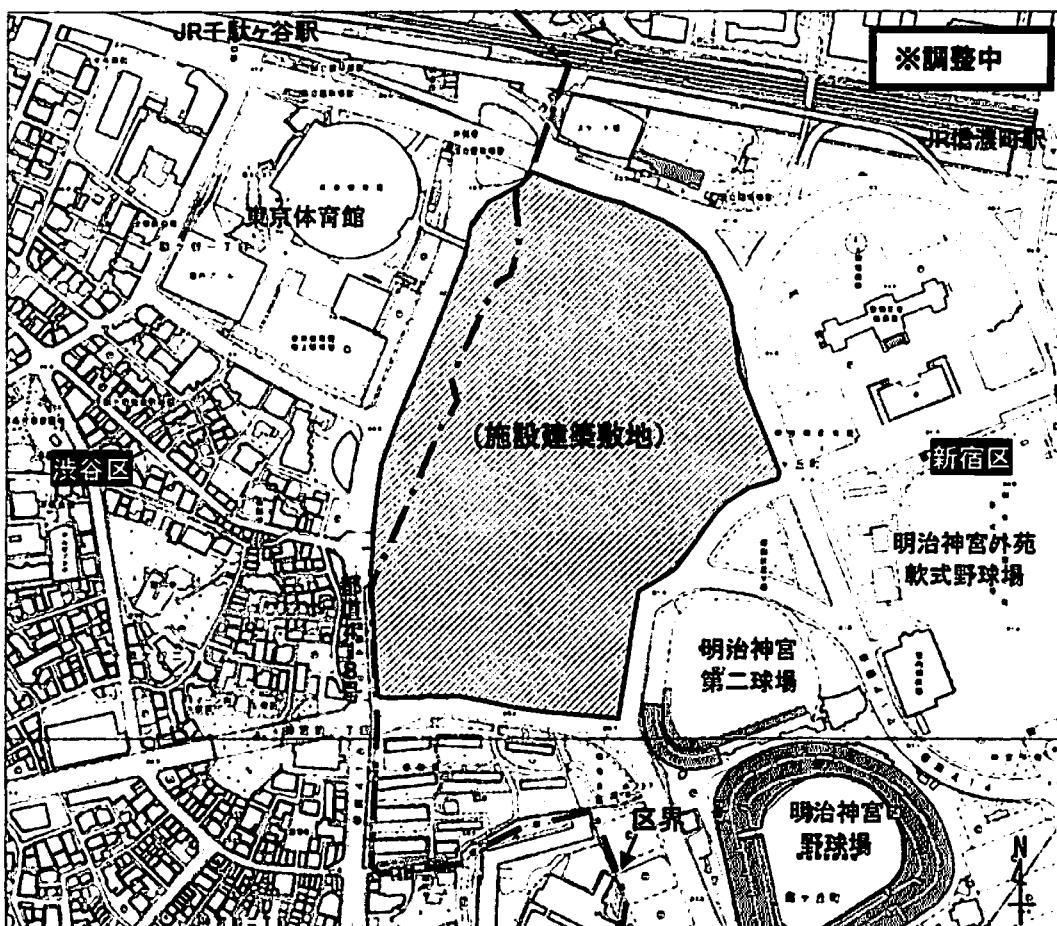


図4 公園整備対象範囲

②公開空地²の確保

- ・図5に示す公開空地整備対象範囲内に、施設建築敷地の面積の40%以上の公開空地を確保する。前記①に示す公園の部分を公開空地に含めることはできない。
- ・なお、図6に例示するように、公開空地を人工地盤の下部に設けることも可能であるが、歩行者等にとって快適で良好な空間とするために、出来る限り地表部に公開空地を確保するよう努めること。

² 本デザイン競技では、「公開空地」とは、安全で快適な歩行者空間（歩道状空地）及び溜まり空間（広場状空地等）として利用される場所であり、一般の人々に日常的に開放されている空間のこと。

3.3 スタジアムへのアクセス

①周辺駅からのアクセス

- ・周辺駅からは、図3に示す6つの方面からスタジアムにアクセスすることになる。
- ・多くの利用者が見込まれるのは、北側にあるJR千駄ヶ谷駅と信濃町駅、都営大江戸線国立競技場駅の3駅である。その他、南側にある東京メトロ青山一丁目駅、外苑前駅及び西側にある北参道駅の3駅からのアクセスが見込まれる。
- ・なお、外苑前駅については、駅周辺において北側方向に向けた明快な動線整備が課題である。

②車両アクセス

- ・車両のメインアクセスは、周辺環境に配慮し、スタジアムの高さを極力低くするため、外周道路で最も標高の低い都道418号からとする。
- ・その理由は、次の通りである。
 - 1) マラソン競技者のピッチへのアクセスは、外周道路から高低差がないようにする必要があること
 - 2) 駐車場をピッチレベル又はピッチ下部に想定していること
- ・ただし、全ての車両のアクセスを都道418号に集中させるのではなく、他の外周道路からでもサービス車両等がアクセスできるように配慮する。

③競技者アクセス

- ・競技者のスタジアムへのアクセスについては、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会招致計画では、明治神宮外苑軟式野球場をサブトラックとして、また、明治神宮第二球場を投げき練習場として利用することを想定している。

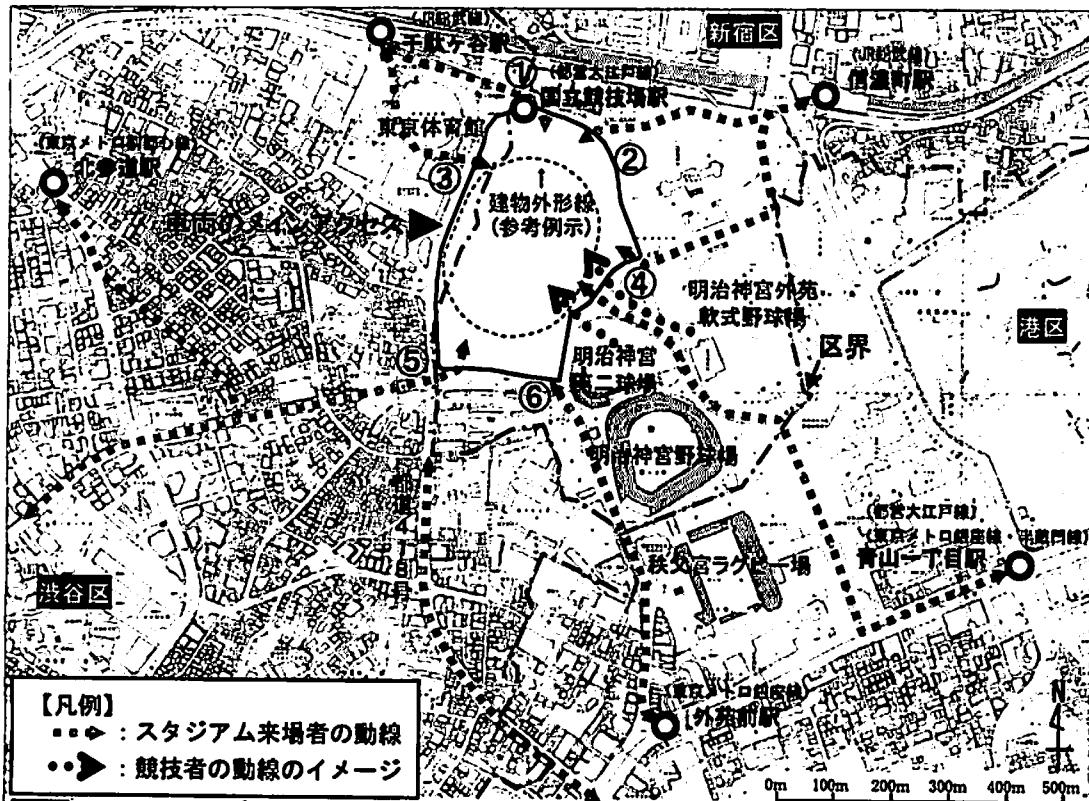


図3 想定アクセス図

表1 新国立競技場の施設構成（導入機能と規模）(つづき)

新国立競技場		
機能	諸室	必要面積
ホスピタリティ機能		
VIP/VVIP席	・観客席面積に含む	
ホスピタリティ諸室	・スポンサー等のバルコニー席が付いた 個室形式の観戦ボックス ・VIP用のラウンジ、レストラン、飲食スペース等 ・VVIP控室等	約25,000m ²
共用部	・トイレ、倉庫、廊下等	
防災警備機能		
警備関連諸室	・警備本部 ・警備員控室等 ・警察・消防控室等	約1,000m ²
スポーツ振興機能		
スポーツ博物館等	・博物館、図書館等	
スポーツ関連商業	・スポーツに関連する幅広い業種業態の店舗等の集積 ・スポーツ産業としてのアンテナショップ等 ・トレーニングセンター	約21,000m ²
共用部	・トイレ、倉庫、廊下等	
維持管理機能		
管理運営諸室	・管理運営に係る本部機能 ・会議室等	
維持管理諸室	・防災センター、設備センター、清掃センター ・駐車場センター ・各種倉庫、備品等置き場等	約35,000m ²
各種設備機械室等	・受変電設備、受水排水設備、熱源設備等 ・トイレ、倉庫、廊下等	

※トイレ、廊下、階段等の共用部は各機能ごとの面積に含む。

容積対象床面積	(駐車場除く)	約244,000m ²
駐車場	・来客、中継、メディア、搬入用スペース、車路等	約46,000m ²
延床面積		約290,000m ²

表1 新国立競技場の施設構成（導入機能と規模）

新国立競技場		
機能	諸室	必要面積
競技等機能		約32,000m ²
競技場等	・ラグビー、サッカー、陸上競技を実施 ・コンサート等のイベントを実施	
競技関連諸室	・練習用走路（バックスタンド下） ・トイレ、倉庫、廊下等	
競技等関連機能		約15,000m ²
競技者等関連諸室	・選手更衣室、シャワー室、控室等 ・ウォーミングアップスペース ・監督室 ・トレーニングルーム ・チームバス等専用出入口、駐車スペース (駐車場面積に含む) ・コンサート等のイベント関係諸室等	
医務、アンチドーピング諸室	・医務室 ・ドーピングコントロール室等	
運営管理関連諸室	・運営本部室、会議室等 ・記録室 ・係員控室、操作室等 ・審判更衣室、審判ウォーミングアップスペース ・コミッショナールーム ・写真判定室等	
共用部	・トイレ、倉庫、廊下、各諸室等	
観覧機能		約111,000m ²
観客席	・収容：陸上で8万人+ラグビー、サッカーで臨場感あふれる観覧席（バリアフリー対応席、VIP、記者席を含む）、通路	
観覧等関連施設	・入場口、チケット売り場、総合案内所等 ・救護室 ・託児室、授乳室 ・トイレ、喫煙スポット、通路等	
飲食、物販	・レストラン、売店	
メディア機能		約4,000m ²
記者席、放送席	・観客席面積に含む	
メディア関連諸室	・記者等の作業スペース、カフェラウンジ、控室等 ・実況放送スタジオ等	
会見室	・会見場 ・ミックスゾーン	
共用部	・トイレ、倉庫、廊下等	
放送関係車用スペース	・中継車等放送関係車用スペース (駐車場面積に含む) ・メディア用駐車場等 (駐車場面積に含む)	

- ・オリンピック・パラリンピック競技大会が実現できる8万人規模の観覧席を整備する
- ・天候に影響されない快適な観覧環境を実現できる開閉式の屋根を整備する
- ・あらゆる規模のイベントにおいて臨場感あふれ、特にコンサート使用時の優れた音響環境を備えるスタジアムを整備する
- ・安全で快適な観客動線や滞り空間等を整備する

【メディア機能】

- ・各種メディアがスムーズに活動できる設備を有するメディア関連諸室を整備する
- ・最新技術に対応しつつ、今後の技術進歩に対する冗長性を有する設備を整備する

【ホスピタリティ機能】

- ・世界水準のホスピタリティ機能を整備する
- ・バリアフリーに対応した誰もが安心して楽しめるホスピタリティ機能を整備する
- ・世界水準のおもてなしを実現できるVIP関連諸室を整備する
- ・各種大会や文化利活用がない時でも楽しめる機能を整備する

【防災警備機能】

- ・観客、選手、運営関係者等スタジアム利用者の安全が確保される機能を整備する
- ・災害発生時には避難場所となる機能を整備する

【スポーツ振興機能】

- ・スポーツのすばらしさを伝えるスポーツ博物館、図書館等を整備する
- ・スポーツ関連商業施設等を整備する
- ・学生の教育の場、観光客の観光スポットとなる機能を整備する

【運営・維持管理機能】

- ・最高水準のスタジアムを維持するための最高水準の維持管理機能を備える
- ・環境にも配慮した設備や維持管理機能を備える

【芝生の育成】

- ・芝生の育成に必要な太陽光、風、水、温度をコントロールできる環境を整備する

【その他機能】

- ・スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリー環境を整備する
- ・現国立競技場の聖火台等の記念作品や芸術作品の活用を検討すること

3. 新国立競技場の施設内容

3.1 計画対象範囲の土地利用構成

①施設建築敷地

- ・スタジアムを整備する範囲であり、以下の土地利用から構成される。
 - 1) スタジアム(競技場を中心として諸機能を複合した施設建築物)
 - 2) 周辺からのアクセス(スタジアムへの歩行者及び車両アクセス)
 - 3) オープンスペース(スタジアム来場者等が安全・快適に歩行・滞留できる公開空地・公園)

②関連敷地（施設建築敷地及び道路を除く計画対象範囲）

- ・施設建築敷地と一体的な空間として、周辺駅からのバリアフリールートの確保、スタジアム来場者等の溜まり空間の確保を図る範囲であり、以下の土地利用から構成される。
 - 1) 既存施設(東京体育館の現在の機能を維持)
 - 2) 周辺からのアクセス(周辺駅からスタジアムへの歩行者アクセス)
 - 3) オープンスペース(スタジアム来場者等が安全・快適に歩行・滞留できる広場空間・公園)
- ・本デザイン競技では、関連敷地内に新たに建築物(人工地盤等の工作物を除く)を建築することはできない。また、図1に示す東京体育館のメインアリーナ、サブアリーナ、屋内プールは撤去することはできない。

3.2 新国立競技場の施設構成

- ・新国立競技場の施設構成(導入機能と規模)は、表1に示すとおりである。
- ・各機能の整備に関する基本的な考え方は、以下に示すとおりである。

【競技等機能】

- ・2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップの決勝会場に必要な機能を整備する
- ・ラグビー、サッカー、陸上競技の大規模な国際大会を実施できる最高水準の機能を整備する
- ・オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアム(開閉会式、陸上競技、ラグビー、サッカー)に必要な機能を整備する
- ・コンサート、展覧会、ファッショショニ等のイベントを実施できる機能を整備する
- ・天候に影響されない利活用を実現できる開閉式の屋根を整備する

【競技等関連機能】

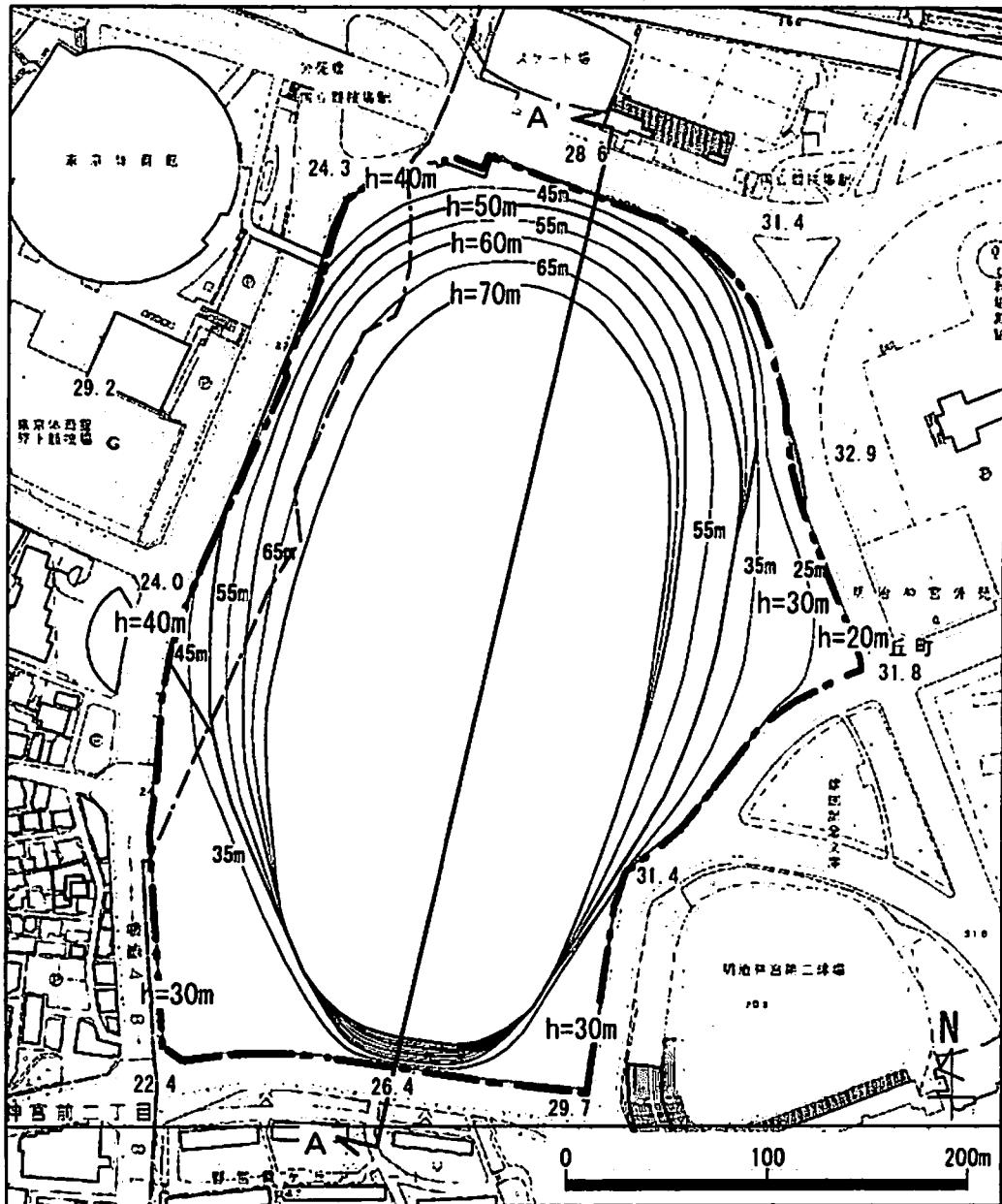
- ・大規模な国際大会の実施に当たって規定された、競技者及び運営関係者の必要諸室を整備する
- ・競技者が競技に専念できる、安全で快適な競技者関連諸室を整備する
- ・安全でスムーズな大会運営が可能となる設備を有する、大会運営関連諸室を整備する
- ・適切な規模と設備を有し、プライバシーや快適性に配慮されたドーピング検査室を整備する
- ・コンサート等のイベントに必要な運営関連諸室を整備する

【観覧機能】

- ・ラグビー、サッカーの競技者と観客に一体感が生まれ、臨場感あふれるピッチに近い観覧席を整備する

2.2 施設建築物の配置

- ・スタジアムの配置及び高さに関する制限は、図2に示す範囲とする。
- ・敷地境界線からの壁面の後退距離を8m以上とする。



※基準地盤面は都道418号高さ (T.P.+24m¹) で設定

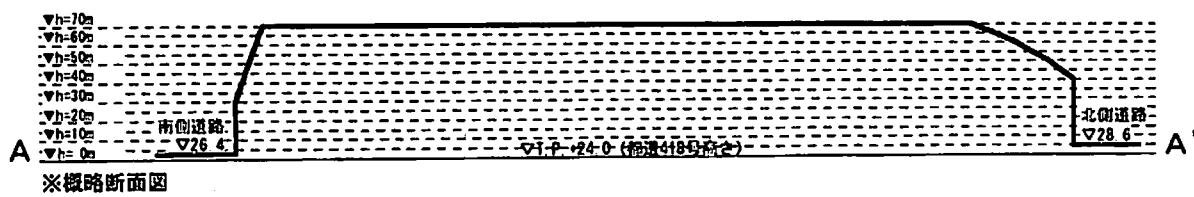


図2 施設配置条件図

¹ 「T.P. (Tokyo Peil)」とは、東京湾平均海面のこと。T.P. +24mは、東京湾平均海面から24mの高さであることを表す。

2. 計画対象範囲

2. 1 位置及び規模

①所在地

- 東京都新宿区霞ヶ丘町10番2号ほか（東京都新宿区及び東京都渋谷区）

②計画対象範囲

- 計画対象範囲は、図1に示すとおりである。
- スタジアムは図1のスタジアムの施設建築敷地の範囲内に整備する。スタジアムの施設建築敷地の面積は約113,000m²であり、そのうち約31,000m²は都立明治公園とされている。
- 計画対象範囲内の関連敷地は、スタジアムの施設建築敷地と一体的な空間として、周辺駅からのバリアフリールート、スタジアム来場者の滞まり空間を確保する。関連敷地の面積は約 m²（既存施設の建築面積を含む）である。
- 計画対象範囲内の道路（都道418号、区道43-690）の位置及び幅員は変更できないが、道路上空に人工地盤、高架歩道等を設けることにより、周辺駅からのバリアフリールートの確保、スタジアム来場者の滞まり空間を整備することも可能である。
- 計画対象範囲北側の道路（都道414号）についても、位置及び幅員は変更できないが、道路上空に人工地盤、高架歩道等を設けることにより、スタジアム来場者等が円滑に往来できるよう提案しても良い。
- 2020年オリンピック・パラリンピック競技大会招致計画では、明治神宮外苑軟式野球場をサブトラックとして、また、明治神宮第二球場を投げき練習場として利用することを想定していることから、スタジアムと明治神宮外苑軟式野球場及び明治神宮第二球場を繋ぐ経路についても競技者が円滑にスタジアムにアクセスできるよう提案しても良い。



図1 計画対象範囲

II. デザイン提案条件

1. 新国立競技場に求められる主な要件(目指すスタジアムの姿)

(1) 大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム

- ・ 国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界が憧れる次世代型スタジアムを目指す
- ・ アスリートやアーティストのベストパフォーマンスを引き出す高性能スタジアムを目指す

(2) 観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム

- ・ 世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す
- ・ 開閉式の屋根や、ラグビー、サッカー及び陸上いずれの競技の開催においても、競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた、快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す

(3) 年間を通してにぎわいのあるスタジアム

- ・ コンサート等の文化的利活用を楽しめる工夫が施され、特に音響に配慮された多機能型スタジアムを目指す
- ・ 各種大会や文化利活用がない時でも気軽に楽しめる商業・文化等の機能を備えたスタジアムを目指す

(4) 人と環境にやさしいスタジアム

- ・ 最先端の環境技術を備え、緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す
- ・ 震災等の災害発生時にも安全で、避難・救援等に貢献できるスタジアムを目指す
- ・ スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリーに配慮されたスタジアムを目指す

- (5) 応募作品の中で使用した他者の著作物については、他者に許諾を得た上で、その内容を応募
関係書類に明記しなければならない。
- (6) 応募作品は、審査後適切な方法による公開展示、作品集としての出版、映像記録集並びに記
念品・広報活動用品の作成及び販売において使用する。この場合の使用料は無償とする。
- (7) 主催者は、最優秀者に対しインタビューを行い、撮影した映像記録集を公開する権利を有し、
無償とする。
- (8) 主催者は、作品を審査のために、所定の形式で複製することがある。
- (9) 応募者は、デザイン競技に作品を提出することによって、上述の規定に同意したものとみなされ
る。

22. 確認書の取り交わし

最優秀者は、最優秀賞を受賞したことに関し、本募集要項16、20及び21に規定する項目について、
9. (4)に定める確認書(案)を締結する。

23. その他

取得した個人情報は、デザイン競技においてのみ利用することとし、他の目的には利用しない。

18. 審査結果発表及び表彰式

- (1) 審査結果は、専用ホームページで公表するとともに、すべての応募者に対し電子メールで通知する。
- (2) 審査についての問い合わせには応じない。
- (3) 主催者は、一次審査の終了後、最優秀賞候補作品の応募者、作品等を発表し、二次審査の終了後、入賞作品の提出者(以下「入賞者」という。)、作品等を発表する。
- (4) 表彰式は、最優秀作品の提出者(以下「最優秀者」という。)を対象とし、平成24年11月に予定している国立競技場将来構想有識者会議の席上において行う。なお、最優秀者が表彰式に出席するための合理的な旅費(代表者1名)は主催者負担とする。
- (5) 表彰式において、最優秀者にはプレゼンテーションの機会が与えられる。

19. 展示会及び作品集

- (1) 主催者はデザイン競技終了後、作品を審査報告書の写しとともに、公開展示することがある。
- (2) 主催者は審査結果の発表後、その経緯、入賞作品の紹介等を内容とする作品集及び映像記録集を作成することがある。

20. デザイン監修、設計及び工事との関連

- (1) 最優秀者は、デザイン監修を行う。
- (2) デザイン監修には、基本・実施設計及び施工段階のデザインの監修が含まれる。
- (3) 基本設計及び実施設計の設計者は、今後、改めて公募型プロポーザルを行い選定する。なお、応募者は、公募型設計プロポーザルに応募することができる。また、最優秀者と他の応募者の公平性を保つ必要があるため、すべての情報を開示し、審査基準に従って公正に選定することとする。
- (4) 最優秀者と資本・人事面等において関連を有する建設業法(昭和24年法律第100号)による建設業者及びその関連会社は、工事の入札に参加することができない。

21. 著作権及び応募作品の取り扱い

- (1) 応募作品の著作権は、応募者に帰属するものとする。したがって応募者が日本における著作権・意匠権等に関する公的な権利の確保を必要とするときは、直接又は代理人を通じて自らの責任においてその手続きをするものとする。
- (2) 主催者は、最優秀作品を基本設計及び実施設計並びに2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップ及び東京2020オリンピック・パラリンピック(招致)などの国立競技場で行われる大会・イベントの広報・招致活動、主催者が行う広報活動に使用できる。この場合の使用料は無償とする。
- (3) 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会は、最優秀作品を基に、オリンピック・パラリンピックの招致活動に使用するために、スタジアムの模型を作成することができるものとする。この場合の使用料は無償とする。
- (4) 主催者は、基本設計、実施設計及び工事施工段階で、今後とりまとめる基本計画、事業費及び施工性などの要因により必要となった場合に、最優秀者と協議の上、作品の一部について合理的に変更することを要請することができ、当該提出者はこれに同意する。

15. 審査委員会

15. 1 審査委員会は、作品を審査する。審査は二段階で行い、一次審査で最優秀賞候補作品を数点選考し、二次審査で最優秀賞1点、優秀賞1点及び入選1点を選定する。

15. 2 審査委員会は下記の委員で構成する。

<施設建築に係る有識者審査委員>

委員長	安藤 忠雄
委員	鈴木 博之
委員	岸井 隆幸
委員	内藤 廣
委員	安岡 正人

<スポーツ利用に係る有識者審査委員>

委員	小倉 純二
----	-------

<文化利用に係る有識者審査委員>

委員	都倉 俊一
----	-------

<日本国以外の国籍を有する建築家審査委員> 2名程度

<主催者>

委員	河野 一郎
----	-------

15. 3 審査委員会は事務局に次の専門アドバイザーを置き、基本構想案の実現性の確認を行う。

専門アドバイザー	和田 章
----------	------

16. 賞金

16. 1 公開デザイン競技の賞金総額は、3,000万円とする。

16. 2 最優秀賞1点の賞金は2,000万円とする。

16. 3 優秀賞は1点とし、賞金は、700万円とする。

16. 4 入選は1点とし、賞金は、300万円とする。

16. 5 賞金は税込額で、支払い通貨は日本円とする。

16. 6 賞金は日本円によって、受賞者に直接支払う。

16. 7 賞金に掛かる税金は、受賞者が負担するものとする。

17. 失格

以下の事項に該当する作品については、審査対象から除外する。また、入賞発表後でも、入賞を取り消し、賞金の返却を求めることがある。

(1)登録申込書、応募資格確認申請書又は著作者証に虚偽の記載のあるもの。

(2)作品に企業名、代表者名、暗号等を記入して、又はこれらを記入した紙片等を差し挟んで提出したもの。

(3)作品受付期間内に提出されなかつたもの。

(4)既に発表された論文、デザイン作品と同一又は類似のもの、若しくは、第三者の著作権・意匠権等の権利侵害であることが明らかとなったもの。

(5)その他、本募集要項に違反するもの。

12. 質疑応答

- (1) 募集要項について質疑のある者は、提供する質疑書(様式3)を8(3)に定める質疑受付期間内(平成24年7月1日～8月20日17時(必着))に、事務局に電子メールで送付しなければならない。その様式及び内容は提供する質疑書に準じること。
- (2) 質疑締切は平成24年8月20日17時(必着)とする。その後に到着した質疑書には回答しない。
- (3) 質疑に対する回答は、専用ホームページで公表する。
- (4) 質疑に対する回答は、募集要項の追加又は修正とし、募集要項と同等の効力を持つものとする。
- (5) すべての質疑に回答するとは限らない。審査委員会が必要と判断したものについてのみ回答する。
- (6) 提供する質疑書によるもの、その様式及び内容に準じる電子メール以外は受け付けない。

13. 作品の提出方法

- (1) 作品の提出は、3. 2に記載の事務局に直接搬入又は郵送並びに輸送代行業者によるものとする。
- (2) 作品は、8(5)に定める作品受付期間内(平成24年9月10日～平成24年9月25日17時)に到着したものを有効とする。ただし、天災その他応募者の責めのない特別遅延の理由がある場合には、締切の日から7日後まで受付を行う。
- (3) 作品は、折り目や汚れが付かないように、筒又は包装資材で梱包しなければならない。
- (4) 応募者は、筒又は包装資材の表面に住所、氏名を明記しなければならない。
- (5) 事務局は、応募者の匿名性を確保するために、審査委員が作品等に接する前に、これらの筒及び包装資材を廃棄する。
- (6) 作品の損傷の程度が著しく、審査に耐えない場合は、作品の再提出を求めることがある。
- (7) 作品受理後、主催者はその保管に万全を期すが、天災その他の不可抗力による破損には責任を負わない。
- (8) 作品は返却せず、事務局において処分する。

14. 匿名性の確保

応募者の匿名性は、一次審査が終了するまで、次の方法により確保される。

- (1) 応募者は、一つのアルファベット文字及び4桁のアラビア数字からなる著作者登録番号を任意に作る。異なる複数の応募者の著作者登録番号が重複した場合には、事務局において枝番を付与する。
- (2) 応募者は、提供された著作者証(様式4)に著作者登録番号、企業名、所在地等の必要事項を記入する。
- (3) 著作者証は、任意の封筒に封入し、封筒の表に著作者登録番号を記入して作品に同封する。
- (4) 応募者は作品の紙面右下に著作者登録番号を記入して提出する。
- (5) 封筒及び作品には、企業名、代表者名、その他暗号等応募者が特定できるサイン等を記入、又はこれらを記入した紙片等を差し挟んではならない。

(3) テーマ別の計画提案

以下に示すテーマに関する提案内容について、それぞれA4判用紙1枚(日本語で1,000字以内、英語で500語以内)にまとめる。文章・概念図・スケッチ・イメージ写真などを組み合わせて、分かりやすい表現に努める。2部提出し、ページ番号を記すこと。

テーマ①:臨場感あふれる観覧席に関する考え方

テーマ②:観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する考え方

テーマ③:ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する考え方

テーマ④:環境配慮に関する考え方(省エネルギー、エネルギー多重化及び緑化等)

テーマ⑤:構造計画、屋根の架構及び開閉機構に関する考え方

テーマ⑥:事業費及び工期に関する考え方(事業費は、建物本体と外構部分を分けて提示すること。)

(4) 電子データ

- ・(1)から(3)の図書の電子データを収めたCD-ROM又はDVDを作成する。2部提出し、企業名及び著作者登録番号を記載すること。
- ・電子データはPDF形式(1ファイル当たり30MB以内程度、圧縮ソフトの使用不可)とし、必要に応じてフォントの埋め込みやアウトライン化等を行い、Adobe Reader9で正しく読み取れることを確認すること。
- ・図版のサイズは(1)から(3)で指定するものとそれ同一とする。写真や図の解像度は200dpi以上を目安とし、出力した際に文字・図が鮮明に読み取れるようにすること。

10. 2 応募者が提出する作品は、審査資料として使用するとともに、作品集に使用することがある。

なお、作品は未発表とし、応募点数は一点に限る。

10. 3 作品は、提出後、その追加及び修正を認めない。

10. 4 前記各項に掲げられた作品以外の書類等が提出されても、審査の対象としない。

11. 登録方法

(1) 応募しようとする者は登録すること。なお、登録料は無料である。

(2) 登録しようとする者は、提供する登録申込書(様式1)及び応募資格確認申請書(様式2)に必要事項を記入し、8(2)に定める登録受付期間内(平成24年7月1日～平成24年9月10日17時(必着))に、事務局に電子メールで送付しなければならない。その様式及び内容は提供する登録申込書及び応募資格確認申請書に準じること。なお、応募資格確認書に添付する書類については、画像ファイル(JPEG形式およびGIF形式)又はPDFファイル(Acrobat Reader9で正しく読み取れるもの)の形式で電子メールに添付すること。その際、電子メールに添付するファイルの容量は合計3MB以下とする。

(3) 登録後にその内容に変更が生じた場合には、直ちに電子メールで事務局に通知すること。なお、登録受付期間後の登録内容の変更は、原則として、認めない。

(4) 登録情報は、審査が終了するまで事務局において厳重に保管される。

ードしなければならない。

- (1)募集要項
- (2)参考資料(敷地図・周辺図・気象条件等・周辺交通現況図・地質柱状図・周辺現況写真・航空写真・国立競技場の芸術作品や記念作品一覧)
- (3)登録申込書(様式1)・応募資格確認申請書(様式2)・質疑書(様式3)・著作者証(様式4)
- (4)確認書(案)

10. 応募者が提出する図書等

10. 1 応募者が提出する図書等は以下のとおりとする(以下「作品」という。)。

(1)スタジアムの外観及び内観パース

①提案するスタジアムの外観パース1点(鳥瞰)、内観パース3点(ラグビー・サッカー使用時、陸上競技使用時並びにコンサート使用時の各1点)をそれぞれA3判用紙1枚に描く。周辺の添景も含めることとし、必ず着彩することとする。

本パースは、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会が国際オリンピック委員会に提出する東京2020オリンピック・パラリンピック招致立候補ファイルに掲載される。なお、掲載のため、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会は、パースにオリンピック・パラリンピック競技大会のロゴ等加えるなど装飾加工を行うことができるものとする。

②デザイン説明:前記①のパース4点のコンセプト説明をA1判用紙1枚にまとめる。

・①で求めるパースを配置し、パースごとにコンセプト説明を分かりやすく記述する。必要に応じ、概念図等を用いて支障ない。また、必要に応じ着彩するなど、視覚的に分かりやすい表現に努める。

(2)スタジアムの施設建築計画・概略設計

「II. デザイン提案条件」で示す事項を前提として、新国立競技場(スタジアム)の施設建築計画・概略設計を行い、以下に示す事項をA1判用紙1枚にまとめる。

・計画・設計趣旨:設計の基本的考え方を分かりやすく記述する。必要に応じ、概念図等を用いて支障ない。

・配置図:必要に応じ着彩するなど、視覚的に分かりやすい表現に努める。

・各階平面図:機能区分ごとに着彩するとともに、視覚的に分かりやすい表現に努める。地上レベル(GL)、人工地盤レベル(DL)の平面図には敷地境界を描き入れ、公園とする部分、公開空地(一般に公開するオープンスペース)とする部分を明示し、以下の事項について明記すること。

・公園面積

・公開空地面積

・施設建築敷地の面積に対する公開空地面積の割合

・立面図(4面):必要に応じ着彩するなど、視覚的に分かりやすい表現に努める。

・断面図(2方向以上):必要に応じ着彩するなど、視覚的に分かりやすい表現に努める。

・アクセス及び動線処理の考え方:歩行者・車両のアクセス及び動線処理の考え方について、ダイアグラム表現などを用いて分かりやすく表現する。

- (1) 建築士法(昭和25年法律第202号)第23条の規定に基づく一級建築士事務所、外国においては、デザイン競技の対象となる建築物の設計監理業務を行う資格を有する企業であること。
- (2) 応募者の代表者若しくは構成員が次のいずれかの資格を有する者であること。
- ① 建築士法に基づく一級建築士である者
 - ② 外国においては、デザイン競技の対象となる建築物の設計監理業務を行う資格を有する者
- (3) 応募者の代表者若しくは構成員が次のいずれかの実績を有する者であること。
- ① 次のいずれかの国際的な建築賞の受賞経験を有する者
 - 1) 高松宮殿下記念世界文化賞(建築部門)
 - 2) プリツカー賞
 - 3) RIBA(王立英国建築家協会)ゴールドメダル
 - 4) AIA(アメリカ建築家協会)ゴールドメダル
 - 5) UIA(国際建築家連合)ゴールドメダル
 - ② 収容定員1.5万人以上のスタジアム(ラグビー、サッカー又は陸上競技等)の基本設計又は実施設計の実績を有する者

なお、実績を有する場合として認められるためには、その基本設計又は実施設計において、管理技術者又は建築意匠に関する主任技術者として主要な役割を果たした者であることを要する。

7. 2 前号の規定にかかわらず、次に掲げる者は、デザイン競技に応募することができない。

- (1) 審査委員会の委員
- (2) 独立行政法人日本スポーツ振興センター職員及び事務局関係者
- (3) 前記(1)、(2)に掲げる者と同居している親族又はこの者が自ら主宰し若しくは役員、顧問等として関係する組織に所属する者

7. 3 応募者は、前項に掲げる者から、デザイン競技に関し直接又は間接に援助その他情報提供を受けてはならない。

8. スケジュール

- (1) 募集要項(提供資料一式)交付開始: 平成24年7月 日13時(日時はすべて日本時間による。
以下同じ。)
- (2) 登録受付期間: 平成24年7月 日 ~ 平成24年9月10日17時(必着)
- (3) 質疑受付期間: 平成24年7月 日 ~ 平成24年8月20日17時(必着)
- (4) 質疑回答: 平成24年9月3日(予定)
- (5) 作品受付期間: 平成24年9月10日 ~ 平成24年9月25日17時(必着)
- (6) 一次審査: 平成24年10月16日(予定)
- (7) 最優秀賞候補作品発表: 平成24年10月18日(予定)
- (8) 二次審査: 平成24年11月7日(予定)
- (9) 審査結果発表: 平成24年11月中旬(予定)
- (10) 表彰式: 平成24年11月下旬(予定)

9. 応募者に提供される書類

応募者には、次の書類を提供する。なお、提供する書類は、応募者が専用ホームページからダウンロードする。

I. 応募条件

1. 競技の名称

新国立競技場基本構想公開デザイン競技

2. 競技方式

公開デザイン競技

3. 主催者及び事務局

3. 1 主催者:独立行政法人日本スポーツ振興センター

3. 2 事務局:新国立競技場公開デザイン競技事務局

東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号

TEL 03-5410-9140

電子メール compe-info@naash.go.jp

URL <http://www.jpnsport.com>

4. 競技の目的及び対象

4. 1 目的

2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップ及び2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を視野に入れた国立競技場の改築に係る新国立競技場基本構想デザイン案を募集するものである。

4. 2 対象

競技の対象（提案を求める新国立競技場基本構想デザイン案の内容）は、スタジアムのデザインに関する事項、臨場感あふれる観覧席に関する事項、観客等の周辺駅からスタジアムへのアクセス及び入退場動線処理に関する事項、ホスピタリティ機能及びスポーツ以外のスタジアムの利活用に関する事項、環境配慮に関する事項（省エネルギー、エネルギー多重化及び緑化等）、構造計画・屋根の架構及び開閉機構に関する事項並びに事業費及び工期に関する事項とする。

5. 使用言語

日本語又は英語

(1)応募者は日本語又は英語のどちらかの言語を選択できる。ただし、日本語で提出する場合は、必ず、英語版を提出すること。

(2)文章は読みやすいよう配慮すること。判読不能な場合は、応募作品を受け付けない場合がある。

6. 使用寸法

メートル法

7. 応募者

7. 1 次の(1)から(3)に掲げる全ての条件を満たす場合に、応募資格が認められる。

まえがき

1964年の東京オリンピックは、日本が戦後復興をとげ、国際社会の舞台に復帰するシンボルであった。国家プロジェクトとして開催された本大会において、国立競技場はメインスタジアムとして使用され、その後、オリンピックのレガシーとして今日まで大切にされてきた。しかし、建築から半世紀が経過し、老朽化や、多様化する競技の国際基準への対応などの課題に直面している。

招致を目指す2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして、また、すでに2019年に開催が決定しているラグビー・ワールドカップのメインスタジアムとなる国立競技場を改築し、新たな歴史に一步を踏み出すこととした。

新しい競技場は、オリンピックはもとより球技・陸上などの国際大会開催を可能とし、また、スポーツ・文化の拠点となるよう、次世代型スタジアムとして整備することが求められる。世界に誇れる新スタジアムの創造を期待し、広く世界からデザイン案を公募する。この意図を理解され、意欲的にデザイン競技に参加されることを切に願う。

独立行政法人日本スポーツ振興センター
理事長 河野 一郎

審査委員長メッセージ

地球人の未来へ向かう灯台

半世紀前に誕生した国立競技場は、世界最高のスポーツの祭典の場に相応しい場を提供し得た、日本の近代建築誕生の宣言であり、同時にそれは、未来へと向かう国家と国民の意思表明の建築であった。

その偉大なる日本近代の遺産が、半世紀を経て新たに生まれ変わる。

驚くべきスピードで変化するグローバル化社会、複雑化する一方の人間生活。一方で、世界人口の増加と枯渇する資源、エネルギー、温暖化等、地球環境そのものの異変など、民族国家を超えたおおきな問題への対応を迫られている21世紀の現代。

この難しい時代に、国家プロジェクトとしてつくられる競技場とは、あらゆる制度的な枠組みを超えた、地球人がつくる地球人のための建築でなければならない。そして、混沌とする世界状況にあって、人々が新しい人間文明の未来を構築すべく立ちあがる、その意思を喚起するような、力に溢れたものでなければならない。

つくるべきは地球人の未来へと向かう灯台、希望の象徴となれる場所だ。

人間の叡智と現代技術の総力を結集した最高の建築を実現するため、広く世界に、アイディアを募りたい。

新しい時代の幕開けを告げる、知性と情熱に満ちた提案を期待する。

審査委員長 安藤忠雄

目 次

I. 応募条件

1. 競技の名称	2
2. 競技方式.....	2
3. 主催者及び事務局	2
4. 競技の目的及び対象	2
5. 使用言語.....	2
6. 使用寸法.....	2
7. 応募者	2
8. スケジュール.....	3
9. 応募者に提供される書類.....	3
10. 応募者が提出する図書等	4
11. 登録方法	5
12. 質疑応答	6
13. 作品の提出方法	6
14. 匿名性の確保.....	6
15. 審査委員会	7
16. 賞金	7
17. 失格	7
18. 審査結果発表及び表彰式	8
19. 展示会及び作品集	8
20. デザイン監修、設計及び工事との関連.....	8
21. 著作権及び応募作品の取り扱い.....	8
22. 確認書の取り交わし	9
23. その他.....	9

II. デザイン提案条件

1. 新国立競技場に求められる主な要件（目指すスタジアムの姿）	10
2. 計画対象範囲	11
3. 新国立競技場の施設内容.....	13
4. 工事費概算及び事業スケジュール.....	20

新国立競技場基本構想公開デザイン競技募集要項

(案)

**JAPAN SPORT
COUNCIL**

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

新国立競技場基本構想公開デザイン競技の概要（案）

1. 目的

2019年に開催が決定しているラグビー・ワールドカップ及び2020年オリンピック・パラリンピック競技大会招致を視野に入れた国立競技場の改築に向けて、新国立競技場基本構想デザイン案を広く世界から募集するものである。

2. 新国立競技場に求められる主な要件

- ・大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム
 - ～国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界があこがれる次世代型スタジアムを目指す～
- ・観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム
 - ～世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す～
 - ～開閉式の屋根や競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す～
- ・年間を通して賑わいのあるスタジアム
 - ～コンサート等の文化的利活用を楽しめる工夫が施された多機能型スタジアムを目指す～
- ・人・環境に優しいスタジアム
 - ～最先端の環境技術を備え、緑のある環境と調和するスタジアムを目指す～

3. 最優秀作品の取り扱い

- ・最優秀作品は、新国立競技場基本構想デザイン案に採用する。
- ・最優秀作品は、東京2020オリンピック・パラリンピック招致の立候補ファイルなどの招致活動に使用する。

4. 競技日程

- ・募集公告：2012年7月下旬予定
- ・結果発表：2012年11月下旬予定

5. デザイン提案条件概要

- ・施設建築敷地：約113,000m²
- ・計画施設面積：約290,000m²
- ・計画施設構成：主な施設

- ① 2019年に開催されるラグビー・ワールドカップの決勝会場及び2020年オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアム（開閉会式、陸上競技、ラグビー、サッカー）を視野に入れた競技場
- ② スポーツ博物館、飲食・物販施設

6. 主催者

- ・独立行政法人日本スポーツ振興センター

周辺環境（都市計画見直しの検討等）について（案）

○神宮外苑地区のあり方

①観客動線・溜まり空間について

国立競技場の改築は、8万人収容のスタジアムとなる見込みであり、2019年に開催が決定しているラグビー・ワールドカップの決勝会場として使用される。

また、周辺には、秩父宮ラグビー場、神宮球場、東京体育館などの大規模大会が開催されるスポーツ施設が揃っている。

周辺駅からのパリアフリーに対応した安全な観客動線・溜まり空間を確保するためには、周辺環境を含めた、まちづくりを行う必要があることから、神宮外苑地区全体を都市計画見直しの範囲と考える。

②都市計画見直しについて

国立競技場の改築にあたっては、敷地の一部を公開空地として一般に開放することなど、公共性の高い施設を設けることを条件に用途、高さ、容積率等の既存都市計画の規制に対応することとしている。

神宮外苑地区全体としての環境の向上のため、将来的な他のスポーツ施設等の建て替え等を見据えた、まちづくりを行う必要があることから、神宮外苑地区全体を都市計画見直しの範囲と考える。

表1 新国立競技場の施設構成（導入機能と規模）（つづき）

新国立競技場		諸室	必要面積
機能			
ホスピタリティ機能			
VIP/VVIP席	・観客席面積に含む		
ホスピタリティ諸室	・スponサー等のバルコニー席が付いた 個室形式の観戦ボックス		約25,000m ²
	・VIP用のラウンジ、レストラン、飲食スペース等 ・VVIP控室等		
共用部	・トイレ、倉庫、廊下等		
防災警備機能			
警備関連諸室	・警備本部 ・警備員控室等 ・警察・消防控室等		約1,000m ²
スポーツ振興機能			
スポーツ博物館等	・博物館、図書館等		
スポーツ関連商業	・スポーツに関連する幅広い業種業態の店舗等の集積 ・スポーツ産業としてのアンテナショップ等 ・トレーニングセンター		約21,000m ²
共用部	・トイレ、倉庫、廊下等		
維持管理機能			
管理運営諸室	・管理運営に係る本部機能 ・会議室等		
維持管理諸室	・防災センター、設備センター、清掃センター ・駐車場センター ・各種倉庫、備品等置き場等		約35,000m ²
各種設備機械室等	・受変電設備、受水排水設備、熱源設備等 ・トイレ、倉庫、廊下等		

※トイレ、廊下、階段等の共用部は各機能ごとの面積に含む。

容積対象床面積	(駐車場除く)	約244,000m ²
駐車場	・来客、中継、メディア、搬入用スペース、車路等	約46,000m ²
延床面積		約290,000m ²

表1 新国立競技場の施設構成（導入機能と規模）

新国立競技場		
機能	諸室	必要面積
競技等機能		
競技場等	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビー、サッカー、陸上競技を実施 ・コンサート等のイベントを実施 	約32,000m ²
競技関連諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・練習用走路（バックスタンド下） ・トイレ、倉庫、廊下等 	
競技等関連機能		
競技者等関連諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・選手更衣室、シャワー室、控室等 ・ウォーミングアップスペース ・監督室 ・トレーニングルーム ・チームバス等専用出入口、駐車スペース (駐車場面積に含む) ・コンサート等のイベント関係諸室等 	約15,000m ²
医務、アンチドーピング諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・医務室 ・ドーピングコントロール室等 	
運営管理関連諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・運営本部室、会議室等 ・記録室 ・係員控室、操作室等 ・審判更衣室、審判ウォーミングアップスペース ・コミッショナールーム ・写真判定室等 	
共用部	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、倉庫、廊下、各諸室等 	
観覧機能		
観客席	<ul style="list-style-type: none"> ・収容：陸上で8万人+ラグビー、サッカーで臨場感あふれる観客席（バリアフリー対応席、VIP、記者席を含む）、通路 	約111,000m ²
観覧等関連施設	<ul style="list-style-type: none"> ・入場口、チケット売り場、総合案内所等 ・救護室 ・託児室、授乳室 ・トイレ、喫煙スポット、通路等 	
飲食、物販	<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン、売店 	
メディア機能		
記者席、放送席	<ul style="list-style-type: none"> ・観客席面積に含む 	約4,000m ²
メディア関連諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・記者等の作業スペース、カフェラウンジ、控室等 ・実況放送スタジオ等 	
会見室	<ul style="list-style-type: none"> ・会見場 ・ミックスゾーン 	
共用部	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、倉庫、廊下等 	
放送関係車用スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・中継車等放送関係車用スペース (駐車場面積に含む) ・メディア用駐車場等 (駐車場面積に含む) 	

- ・ 安全でスムーズな大会運営が可能となる設備を有する、大会運営関連諸室を整備する
- ・ 適切な規模と設備を有し、プライバシーや快適性に配慮されたドーピング検査室を整備する
- ・ コンサート等のイベントに必要な運営関連諸室を整備する

【観覧機能】

- ・ ラグビー、サッカーの競技者と観客に一体感が生まれ、臨場感あふれるピッチに近い観覧席を整備する
- ・ オリンピック・パラリンピック競技大会が実現できる8万人規模の観覧席を整備する
- ・ 天候に影響されない快適な観覧環境を実現できる開閉式の屋根を整備する
- ・ あらゆる規模のイベントにおいて臨場感あふれ、特にコンサート使用時の優れた音響環境を備えるスタジアムを整備する
- ・ 安全で快適な観客動線や溜まり空間等を整備する

【メディア機能】

- ・ 各種メディアがスムーズに活動できる設備を有するメディア関連諸室を整備する
- ・ 最新技術に対応しつつ、今後の技術進歩に対する冗長性を有する設備を整備する

【ホスピタリティ機能】

- ・ 世界水準のホスピタリティ機能を整備する
- ・ バリアフリーに対応した誰もが安心して楽しめるホスピタリティ機能を整備する
- ・ 世界水準のおもてなしが実現できるVIP関連諸室を整備する
- ・ 各種大会や文化利活用がない時でも楽しめる機能を整備する

【防災警備機能】

- ・ 観客、選手、運営関係者等スタジアム利用者の安全が確保される機能を整備する
- ・ 災害発生時には避難場所となる機能を整備する

【スポーツ振興機能】

- ・ スポーツのすばらしさを伝えるスポーツ博物館、図書館等を整備する
- ・ スポーツ関連商業施設等を整備する
- ・ 学生の教育の場、観光客の観光スポットとなる機能を整備する

【運営・維持管理機能】

- ・ 最高水準のスタジアムを維持するための最高水準の維持管理機能を備える
- ・ 環境にも配慮した設備や維持管理機能を備える

【芝生の育成】

- ・ 芝生の育成に必要な太陽光、風、水、温度をコントロールできる環境を整備する

【その他機能】

- ・ スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリー環境を整備する
- ・ 現国立霞ヶ丘競技場の聖火台等の記念作品や芸術作品の活用を検討すること

新しい国立競技場に求められる要件について（案）

1. 新国立競技場に求められる主な要件（目指すスタジアムの姿）

(1) 大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム

- ・ 国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界が憧れる次世代型スタジアムを目指す
- ・ アスリートやアーティストのベストパフォーマンスを引き出す高性能スタジアムを目指す

(2) 観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム

- ・ 世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す
- ・ 開閉式の屋根や、ラグビー、サッカー及び陸上いずれの競技の開催においても、競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた、快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す

(3) 年間を通してにぎわいのあるスタジアム

- ・ コンサート等の文化的利活用を楽しめる工夫が施され、特に音響に配慮された多機能型スタジアムを目指す
- ・ 各種大会や文化利活用がない時でも気軽に楽しめる商業・文化等の機能を備えたスタジアムを目指す

(4) 人と環境にやさしいスタジアム

- ・ 最先端の環境技術を備え、緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す
- ・ 震災等の災害発生時にも安全で、避難・救援等に貢献できるスタジアムを目指す
- ・ スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリーに配慮されたスタジアムを目指す

2. 新国立競技場に求められる施設構成（導入機能と規模）

- ・ 新国立競技場に求められる施設機能の基本的な考え方は、次のとおりである。
- ・ 新国立競技場の施設構成（導入機能と規模）は、[表1]に示すとおりである。

【競技等機能】

- ・ 2019年に日本で開催されるラグビー・ワールドカップの決勝会場に必要な機能を整備する
- ・ ラグビー、サッカー、陸上競技の大規模な国際大会を実施できる最高水準の機能を整備する
- ・ オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアム（開閉会式、陸上競技、ラグビー、サッカー）に必要な機能を整備する
- ・ コンサート、展覧会、ファッションショー等のイベントを実施できる機能を整備する
- ・ 天候に影響されない利活用を実現できる開閉式の屋根を整備する

【競技等関連機能】

- ・ 大規模な国際大会の実施に当たって規定された、競技者及び運営関係者の必要諸室を整備する
- ・ 競技者が競技に専念できる、安全で快適な競技者関連諸室を整備する

論点について

新しい国立競技場に求められる要件について

- (1) スタジアム規模は8万人がスタートライン
- (2) 球技・陸上を開催できるスタジアム
 - ① サブトラック
 - ② 明治公園（西・南側）・日本青年館も合わせた敷地
- (3) 世界標準のホスピタリティ機能を備えたスタジアム
- (4) スポーツ・文化発信の場～全天候型スタジアム
 - ① 多様な利活用形態による稼げるスタジアム
- (5) タイトなスケジュール
 - ① 工期等
 - ② 都市計画手続き
 - ③ 招致立候補ファイル内容確定

【課題 1】周辺環境（都市計画見直しの検討等）について

- (1) 神宮外苑地区のあり方
 - ① アクセス・観客動線を確保するため“面”としての考え方

【課題 2】財源・税制について

- (1) スポーツ振興くじの役割

国立競技場将来構想有識者会議・ワーキンググループの開催状況

	国立競技場将来構想有識者会議	国立競技場将来構想ワーキンググループ		
		施設建築グループ	施設利活用グループ(スポーツ)	施設利活用グループ(文化)
3月	【第1回】平成24年3月6日 ・国立競技場の将来構想について ・ワーキンググループの設置について			
4月		【第1回】平成24年4月10日 ・建替えに係る与条件について ・国際デザイン・コンクールについて 等	【第1回】平成24年4月26日 ・施設建築グループへの要望について 等	
5月		【第2回】平成24年5月14日 ・施設利活用グループ(スポーツ・文化) からの要望について ・国際デザイン・コンクールについて 等		【第1回】平成24年5月7日 ・施設建築グループへの要望について 等
6月		【第3回】平成24年6月14日 ・新国立競技場に求められる施設機能 等について ・国際デザイン・コンクールについて 等		【第2回】平成24年6月29日 ・施設建築グループからの国際デザイ ン・コンクールに係る報告 ・海外事例視察報告 等
7月	【第2回】平成24年7月13日 ・国立競技場の改築に向けた論点整理について ・新国立競技場基本構想デザインの公募について	【第4回】平成24年7月13日 ・国際デザイン・コンクールについて ・有識者会議への報告について	【第2回】平成24年7月5日 ・施設建築グループからの国際デザイ ン・コンクールに係る報告 等	

<参考資料>

- 参考資料 1 施設利活用グループ（スポーツ）と施設利活用グループ（文化）からの要望の整理（案）
- 参考資料 2 想定される諸室と規模（案）
- 参考資料 3 都市計画の見直しと競技場施設建築敷地（案）

国立競技場将来構想有識者会議（第2回）次第

■日 時： 平成24年7月13日（金） 16:00～17:00
■場 所： 明治記念館 蓬莱の間（2階）

<審議事項>

- 1 国立競技場の改築に向けた論点整理について
 - 1-1 ワーキンググループの経緯について
 - 1-2 論点について
 - 1-3 新しい国立競技場に求められる要件について
 - 1-4 周辺環境（都市計画見直しの検討等）について
- 2 新国立競技場基本構想デザインの公募について
- 3 その他

<資料>

- 資料1 国立競技場将来構想有識者会議・ワーキンググループの開催状況
資料2 論点について
資料3 新しい国立競技場に求められる要件について（案）
資料4 周辺環境（都市計画見直しの検討等）について（案）
- 資料5-1 新国立競技場基本構想公開デザイン競技の概要（案）
資料5-2 新国立競技場基本構想公開デザイン競技募集要項（案）

だということですので、イベントの翌日、7月21日土曜日の朝刊にメッセージを発するということで、スクリーンにございますようなものを、現在は日経、朝日、読売の全国3紙に出させていただくことを想定して、広く国民にメッセージを出させていただこうと思っております。

今からお配りしますが、告知活動が大変重要だということでございますので、大変僭越でございますが、もし国外へ出かけるようなときがございましたら、今、名刺をお配りしておりますが、ぜひアピールをする際にお使いいただければと思っております。

【佐藤委員長】 大変恐縮ですが、20日に公表する中に審査委員の名前とか書いてございます。それは、20日までは部外秘でございますので、取り扱いについてはよろしくお願い申し上げたいと思います。

【河野理事長】 ありがとうございます。いずれにしても、とりあえずお手元だけにとどめていただいて、公表は差し控えていただければと思います。

【佐藤委員長】 10分超過いたしまして大変恐縮でございました。ご協力、大変ありがとうございました。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は散会いたします。ありがとうございました。

【河野理事長】 どうもありがとうございました。

- ・作品受付：9月10日～9月25日
- ・一次審査：10月16日
- ・最優秀賞候補作品発表：10月18日
- ・二次審査：11月7日
- ・審査結果発表：11月中旬
- ・表彰式：11月下旬

その他、資料に沿って説明

【佐藤委員長】 どうもありがとうございました。今、最終調整の段階にございます。私と河野理事長にご一任いただきますと大変ありがたいのでございますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

時間も大分進みましたので、出されましたご意見につきましては関係者一同、誠実に対応するということを前提といたしまして、議題の1と議題の2で審議した事項については、この本会議として了承するということを決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【佐藤委員長】 大変ありがとうございました。

その他というものを用意してございますけれども、特に私のほうからは用意はございません。特にこの時点で何かございませんでしょうか。

ございませんようでしたら、今日のこの会議は、基本的には終了させていただきたいと存じますが、河野理事長から最後に少しご連絡事項がございます。

【河野理事長】 どうもありがとうございました。先ほど来申し上げておりますけれども、募集要項の公示につきましては、現在、7月20日の金曜日を予定しておりますが、その日に公示ということでございますので、国立競技場におきまして記者発表を兼ねたPRイベントを予定しております。このイベントには安藤座長、小倉座長、都倉座長にも同席いただきまして、デザイン・コンクールの詳細についてご説明いただくことを考えております。

また、安藤座長のほうからも国際デザイン・コンクールですので、告知活動が大変重要

それぞれ全くおっしゃるとおりでございまして、もちろん住民の方のこと、地元のこととを含めて、いろいろな課題はあるかと思いますけれども、やはりこれを実現していくことが日本のこれから、特に民主主義の洗練されたアジアをリードする国として、またソフトパワーでこれから活力を持っていくべき、そういう国として、この地域が世界から注目され、また世界から人の集まる、そういう地域になることが地域にとっても大事なことであり、価値のあることだということを我々ももっと伝えていかなければいけないと思います。

特にラグビー、サッカー、陸上の世界のメッカである。その上で文化についてもメッカである。もちろんVIPも含め、障害者の皆様も含め、また一般の多くの人たちにとって、ここに来ることが癒しにもなり、活力にもなる、そういう場をつくっていくということは、やはり、みんなにとってわくわくすることだと思います。そのわくわくする情熱をチームで共有して、もちろん工程表に厳しく沿って、さっきもありましたけれども、早く実現していただきたいと思いますので、ぜひいいチームワークを持って進められればと思います。ほんとうにありがとうございます。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

続きまして審議事項2、基本構想デザインの公募についてお話をし、ご了承を得たいと思っております。詳細は河野理事長からお話をいたしますけれども、その前に██████何がございますか。

【◎委員】 世界中で言いますと、日本が大変おとなしいというか、弱っているのではないかと言われていますので、この大きな施設を世界コンペにすることによって、日本の力をしっかりと世界に示せればいいなというようなことも含めて、世界コンペにしたいと思いました。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

それでは、説明は河野理事長からお願ひいたします。

【河野理事長】 それでは、説明させていただきます。資料5-1をごらんいただきたいと思います。

●「国立競技場基本構想国際デザイン競技募集要項」に沿って資料説明

○新国立競技場基本構想公開デザイン競技日程

- ・登録受付：7月20日～9月10日
- ・質疑受付：7月20日～8月20日
- ・質疑回答：9月3日

な規模、そして設備、これらの数字をぜひお考えいただいて、お決めいただければと思います。ありがとうございました。

【佐藤委員長】 どうもありがとうございました。

それでは、引き続きまして [REDACTED]

[REDACTED] よろしくお願ひいたします。

【◎委員代理】 [REDACTED] でございます。今回の計画の中には、計画段階から障害者の競技選手についての配慮、それから観客についてのいろいろなご配慮、それから、駅からのアプローチ、こういった面でいろいろ幅広く配慮がされているように思いまして、大変ありがとうございます。

先ほど来、このあたりを一大エンターテインメントのゾーンにするというお話でございますが、あわせて日本におけるバリアフリーの先進地域、モデル地域といったような意味合いも込めて、総合的に計画していただければ、ますます大変ありがたいなと思っております。ありがとうございました。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

では、引き続きまして [REDACTED] お願いいたします。

【◎委員代理】 [REDACTED] 平素からお世話になっております。御礼申し上げます。

私から、本件、大変タイトな日程でございますので、[REDACTED] 都市計画についてきちんと対応していかなければいけないという気持ちを新たにいたしました。もちろん本件、権限上、[REDACTED] で都市計画の見直しが可能でございます。しかしながら、地元の了解が全くなくてやれるかということになると大変不安でございます。そこをきちんとやっていかなければいけない。この場合の地元というのは、地元の区であり、住民であり、先ほど河野理事長が言われた [REDACTED] なども当然入ってくるということでございます。

[REDACTED] これらの地元に対してかなり計画的に、時系列も含めて説明する詳細な計画を既につくっております。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。いろいろとお手数でございますが、よろしくお願ひいたします。

全体を通じまして、[REDACTED] よろしくお願ひいたします。

【◎委員】 非常に迅速に、ここまでまとめてくださったということに私からも心から感謝申し上げたいと思います。また、本日出していただきましたご意見につきましても、

まさにメインスタジアムは東京2020年の計画の中心になると思いますので、それに何とか間に合わせていただくことが2020年にもIOCの最後の票に結びついてくることだろうと思っておりますので、ぜひ皆様方のご協力をまたよろしくお願ひ申し上げたいと思います。ありがとうございます。

【佐藤委員長】 どうもありがとうございました。

では、続きまして██████████よろしくお願ひいたします。

【◎委員】 国立競技場をはじめとして、この神宮一帯は私たち若いころから大変楽しんできたところでございます。十分に色々な意味で活用させていただきました。ちょうど50年たったわけでございますが、これから約50年、次の世代の日本の若い人たちにお渡しするという意味で、この企画はほんとうに大事なことだとしみじみ思っております。

█████████としては、スポーツ基本法ができまして、それから、基本計画ができました。これを日本の競技場のシンボルとして、何とか若い人たちに存分にここで活躍してもらうように、底辺といいますか、そういうことを我々としてはきっと汗を流していきたいと思います。ほんとうにありがとうございました。

【佐藤委員長】 大変ありがとうございます。

続きまして、██████████よろしくお願ひいたします。

【◎委員】 この新しい国立競技場に求められる要件を非常に簡潔、かつ十分な形でおまとめいただきましたことを、まず初めに御礼申し上げます。

█████████ドーピング防止活動という観点で競技場の関連機能といたしまして、プライバシー、そして快適性に配慮されたドーピング検査室をご準備いただけるということを盛り込んでいただきましたことは、ほんとうに感謝しております。ぜひ、この方向で進めていただきたいと思います。

また、あわせてスポーツ振興機能というところに学生の教育の場という言葉も盛り込んでいただきましたが、まさに教育という中にはアンチ・ドーピング活動、あるいはアンチ・ドーピングに対する教育ということも今後含まれてくるというように思っておりますので、この点に関しましても大変感謝しております。

ことし開かれますロンドンオリンピックで、この2週間余りの間にドーピング検査は6,250件と報道されております。JADAが年間行うのが約5,000件でございますので、この2週間余りに非常にたくさんの検体が処理される。すなわち、その大部分はメインの会場で検査を受けることになります。したがいまして、お書きいただきましたように適切

ミアリーグとか、そういうことが盛り込むことができるかどうか。

この3つの観点から、きょうから議論を始めさせていただきました。この国立競技場、独立行政法人ですから、本来ですと全部国の予算でこれまでやってきましたし、国の予算でやっていただくのが一番ありがたいですから、まず、我々議員連盟としては国でどれだけ出せるのか、出してくださいという議論をした上で、もしどうしても足りない場合にサッカーくじをどうするかということを議論していきたいというように思っております。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。引き続きご支援のほど、よろしくお願ひいたします。

次に、[REDACTED] お願いいたします。

【◎委員】 私からは、まず、お礼を申し上げたいと思います。

まさに国家プロジェクトとして世界に誇れ、世界があこがれる次世代型のスタジアムを目指すということを明記していただきましたことを厚く御礼申し上げたいと思います。日本がソフトパワー立国として再生していくための起爆剤として、大変期待のできるプロジェクトでございます。

それから、国際コンペについては、今後、基本設計の概算要求、そして建設費全体についての段取り、こういったプロセスに入ってまいりますが、今回の国立競技場は国民の皆さんのが心を一つに、いろいろな形でご支援とお知恵、そして情熱を持って、これを造り上げる。こうした運動論といいますか、プロセスということもぜひご留意いただいて、そして世界中から知性と情熱を集めるという、安藤座長のメッセージも大変感動的なメッセージを寄せていただいて、大変ありがたく思っているところでございます。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、お願いいたします。

【◎委員】 この2020年東京オリンピック・パラリンピックの施設計画の中でも、まさにメインスタジアムが中心になる目玉のスポーツ施設であります。何といっても一番すばらしいのは、1964年の東京オリンピックのレガシーをこれまで50年間、非常に重要な施設として活用してきたこと。さらに、これを次のオリンピックを開催して、同じ場所で施設できることがさらに50年、合わせて100年間、オリンピックの大変重要なレガシーを、ここで今後も続けていかれることは、ほんとうにすばらしいことであり、IOCもこのことに非常に高く評価していただいているところだと思います。

したがって、サブトラックが仮設という意味は、そこで私は少しひっかかるのでございますけれども、仮設というのはどの程度のものか。さっき申し上げた世界選手権を行いましたときには、絵画館前に仮設のトラックをつくって、世界選手権終了と同時に全部撤去いたしました。もとの原形に戻すという約束で仮設のトラックをつくったものですから、選手権大会が終わると同時にすべて撤去してしまいました。

今度も、もし、そういうことを考えた仮設ということであれば、せっかく立派な陸上競技場が残っても、それが使えないということになってしまいますので、そこで仮設ということに私は少しこだわって、いろいろ申し上げているわけでございます。ぜひご再考をいただきたいと思います。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。おそらく最大限受けとめまして、いろんな努力をいたしておりますので、後ほどまたご報告させていただきます。

続きまして、

お願いします。

【◎委員】 今いろいろ議論いただきまして、我々も大変期待しておりますが、資料2の論点について、その最後の課題に財源・税制について、(1)スポーツ振興くじの役割というのがあります。実はきょう、██████████がいらっしゃいますが、今日からサッカーくじの充実等についてのPTを開きましたので、簡単に概略だけ報告させていただきます。

平成10年に法律が成立し、13年からサッカーくじ、totoがスタートいたしました。当初、売れ行きは大変好調だったんですが、その後、なかなか厳しい状況になって、平成18年には年間売り上げは百数十億で、支援というは8,000万ぐらいしかできなくなつた。その後、ビッグという制度をつくって、それで年間、大体800億強の売り上げ、大きな支援をすることができました。

これからナショナルトレーニングセンター、そして身障者用のナショナルトレーニングセンター、あるいは地方のスポーツ施設、同時に国立競技場の予算を確保しなきゃならないとなると、今のままではなかなか難しいということから、実は過般、体協、JOC、それから障害者スポーツ協会、サッカー協会、ラグビー協会から、我々スポーツ議員連盟に対して、ぜひ内容の充実をしていただきたい、こんなご要望をいただきました。

その第1回目の会合をきょう開かせていただきました。必要な財源ですから、まず財源の確保のために、ひとつは当せん金はそのまでいいのかどうか。より高額にできないか。もう一つは、通年という形ができるのかどうか含めて、海外でやっている例えばブレ

でございます。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

続きまして、██████████をお願いいたします。

【◎委員】 █████でございます。ご説明を伺いまして、まことに夢のような、理想的な案をつくっていただいているわけで、ぜひ実現していただきたいと思いますが、陸上競技連盟の立場に立って申し上げますと、最大の問題はサブトラックでございます。世界陸上競技連盟のルールでサブトラックの施設というものがきちんとなければ公認されないわけでございます。

今、東京都心に本来の競技場と同じ大きさのサブトラックをつくれというのは、相当無理な話だということはよく理解しておりますが、本体の施設と同じようにお考えいただい、イメージできるようなことをしていただきたい、ご報告をいただきたい。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。当面、いろいろ進んでいる考え方もございますので、河野理事長から現状をご報告いたします。

【河野理事長】 サブトラックについては、前回にもご審議いただいたところでございます。今回の計画は2020年のオリンピック・パラリンピックを想定しております。IOCルール、つまり、国際陸連のルールに基づいたものでないとIOCのほうの計画に合致しませんので、現段階は、██████████

██████████最終調整もございますので、具体的な絵はかけておりませんけれども、来年の1月に立候補ファイルを出すというふうにお伺いしておりますので、東京都、もしくは招致委員会のほうで明確にされるというように思いますし、また、ご懸念の件につきましても、仮設という点はちょっと別にいたしまして、少なくとも基準につきましては国際陸連のものを、しっかりと準拠するものを想定しているというように今考えております。

【◎委員】 ありがとうございました。恐縮ですが、もう一言だけ。仮設というところに少しひっかかるのは、これだけ立派な競技場をつくれば、いつでも世界選手権ができる、いつでもアジア選手権ができる。しかし、サブトラックだけは仮設で、オリンピックが終わったらやめてしまう、オリンピック用に仮設にサブトラックを造るのであって、オリンピックが終わったら、それはもうもとに戻してしまうということでは、これだけのすばらしい競技場をつくっていただいても、██████████としては、それによって国際的な大会を行うことはできません。

現在、

都市計画の見直し範囲と競技場の施設建築敷地の案を示してございます。青い線で囲った範囲がスタジアムの施設建設用地でございます。また、赤い線で囲った範囲が神宮外苑地区としてまちづくりに関する都市計画を決定する範囲と考えております。

したがいまして、今、まさに文書で申し上げましたように、赤枠のところが神宮外苑のまちづくりに関する都市計画を決定する区域ということで、都及び区の皆様に大変ご苦労いただいているところでございます。繰り返しになりますが、競技場の施設建築敷地は青印でございます。現在の国立競技場と明治公園、そして日本青年館のおられるところが範囲となっております。

それから、オレンジ色のところでございますけれども、これは、競技場来場者の動線をイメージしております。また、

以上、議事1に関する資料説明をさせていただきました。ありがとうございます。

【佐藤委員長】 どうもありがとうございました。

大体、第1回目の会議で確認しました論点を踏まえて、それを詰め、発展させてきたものでございますが、おそらく追加のご意見もあるかと思います。そこで、3座長を除きます委員の皆様方から一言ずつご意見をちょうだいしたいと思っております。

からご意見をちょうだいしたいと思います。

【◎委員】 いろいろご協議いただいて、大変すばらしい構想にしていただいた、まず
としてはお礼を申し上げたいと思います。

ワールドカップは2019年で既に決定いたしております。前年の2018年、できれば事前の1年前、何かがあるかもしれません。そういうことも含めて完成には非常にタイトな日程になってくると思いますが、ぜひそのことだけはご理解いただきたいということ

以上が新しい国立競技場に求められる要件について、ワーキンググループでまとめいただきたい案でございます。

続きまして、資料の4をご覧いただきたいと思いますが、周辺環境についてでございます。

国立競技場の整備につきましては、3月に制定されましたスポーツ基本計画にも明記されておりまますし、まさに国家プロジェクトで位置づけられているところでございます。前回の論点でも、先ほど申し上げましたように、8万人をスタートラインとするなど、国内最大のスタジアムになることが想定されます。

そのような周辺環境に与える影響の大きい大規模施設の計画に当たっては、当然ながら、地域全体のあり方も考慮していかなければなりません。資料4にありますように、神宮外苑地区のあり方でございます。

①観客導線・溜まり空間について

国立競技場の改築は、8万人収容のスタジアムとなる見込みであり、2019年に開催が決定しているラグビー・ワールドカップの決勝会場として使用される。

また、周辺には、秩父宮ラグビー場、神宮球場、東京体育館などの大規模開催されるスポーツ施設が揃っている。

周辺駅からバリアフリーに対応した安全な観客導線・溜まり空間等を確保するためには、周辺環境を含めた、まちづくりを行う必要があることから、神宮外苑地区全体を都市計画見直しの範囲と考える。

②都市計画見直しについて

国立競技場の改築に当たっては、敷地の一部を公開空地として一般に開放することなど、公共性の高い施設を設けることを条件に用途、高さ、容積率等の既存都市計画の規制に対応することとしている。

神宮外苑地区全体としての環境の向上のため、将来的な他のスポーツ施設等の建て替え等を見据えた、まちづくりを行う必要があることから、神宮外苑地区全体を都市計画見直しの範囲と考える。

ということでございます。

参考資料の3をご覧いただきたいと思いますが、

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

しております。

後ほど触れたいと思いますけれども、周辺環境の問題、財源・税制の問題について課題があるというのは前回ご審議いただいたことでございます。

続きまして、この論点を受けまして各ワーキンググループでご議論いただきまして、取りまとめたものについてご説明申し上げたいと思います。

まず、参考資料の1でございます。これにつきましては、先ほど小倉座長からも触れていただきましたけれども、施設建築グループがスポーツと文化から提出されたものについてまとめていただいたものでございます。左側が要望、そして右側に要望への対応を書いてございます。

要望についての対応につきましては、現段階、デザイン・コンクールの与条件とするものと、その後の基本設計の後で与条件にするものとに黒丸で分けてございます。詳細につきましては省かせていただきます。

それから、参考資料の2でございますけれども、どれくらいの規模の施設が必要かを検討したものでございます。ご覧いただけますように、まず新国立競技場ということで、ここにこれまでご審議いただいたもの、そして参考事例等も参考にいたしまして、現段階で想定すべき事項と面積についてございます。

参考事例につきましては、現在あります国立競技場、そして日産スタジアム、2015年のラグビー・ワールドカップのメインスタジアムが想定されておりますトゥイッケナム、そして先ほど都倉座長からもご紹介がありましたウェンブリー、それから、関連の規定につきましてはサッカー、ラグビー、陸上について、このようにまとめさせていただいております。

いずれにしましても、この参考資料の1と2、これをもとに前へ進んでいくことになると思います。

これらをまとめたものが資料3でございますので、これをご覧いただきたいと思います。これにつきましては、重要な点でございますので、重なる点もございますけれども、読み上げさせていただきます。3ワーキンググループの提案をまとめたものということになります。

●【河野理事長】資料に沿って読み上げる

表につきましては、今申し上げたようなことを含めまして、整理をして必要面積を出してあります。

は、勝手に妄想しているのですが、青山劇場、赤坂から渋谷まで、この国立競技場を中心とした一大エンターテインメント拠点になれば、これは、世界から大変注目され、文化芸術の発信、あとスポーツをエンターテインメントというようにくくりますと、総合エンターテインメント拠点ということで、ブロードウェイを超えるような地域開発になればという、非常に乱暴な夢も描いている次第でございます。

こういうアイデア、あるいは我々のそういう視察の結果を安藤座長にもご報告いたしまして、このたびの設計の参考にしていただいているということでございます。

以上でございます。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

両グループのご意見を受けまして、施設計画を進めてこられました安藤座長からお願いいたします。

【安藤座長】 今、小倉さんと都倉さんにもそれぞれ話をさせていただきましたけれども、今回の施設は都市のほんとうに中心にある。そして8万人、同時にスポーツと文化というものをあわせ持つてやるという大変難しいけれども、非常におもしろい。日本から世界に新しい施設を発信していくというような計画でやっていきたいという中で、それぞれの条件を今まで整理してきましたので、周辺環境等につきましても、河野理事長にお話を聞いていただきたいと思います。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

改めまして全体の整理がどういう状況になっているかということを含めまして、河野理事長からご説明をお願いいたします。

●河野洋平委員、鈴木寛委員連れて出席

【河野理事長】 ありがとうございます。

それでは、説明させていただきます。

まず、資料の2でございますけれども、これももう既に触れられておりますが、前回ご審議いただきました新しい国立競技場に求められる要件についてということでございます。スタジアム規模は8万人がスタート。陸上、そして球技が両方開催できるスタジアム。世界水準のホスピタリティ、スポーツ・文化発信の場、全天候型スタジアム。また、しかしながらタイトなスケジュールであるということについては、ご審議いただいて確認

したいという1つの理由は、もちろん近隣の騒音対策ということもございますけれども、やはり何と申しましても、コンサート、その他のイベントでは音響というものが大切になります。8万人規模のスタジアムで音響を熱心に考えているスタジアムというのは、世界にもあまりないと聞いております。

私とスポーツ振興のスタッフと実は3週間ほど前に、駆け足ではございますが、パリのスタッド・ド・フランス、それから、イギリスのロンドン、ウェンブリーを視察してまいりました。大変近代的で、ほんとうに最先端を行っている2つのスタジアムでございます。スタッド・ド・フランスは、ご承知のとおり国立でございまして、ウェンブリーは株式会社、民間の経営でございます。

それぞれ特徴はたくさんございますが、一番感じましたのは、やはり来場する8万人、9万人規模のスポーツ観戦者、あるいはコンサートの観客がいかに快適に、いい環境でイベントを観戦できるかということにはんとうに腐心しているという跡がうかがわれます。

その1つは、先ほど小倉座長からもありましたが、ホスピタリティエリアというものが非常に充実しております。そのホスピタリティエリアの広さというものは、驚くべきものでございまして、ウェンブリー・スタジアムなどは1万5千人が飲食できるという施設を備えているということは驚くべきことでございます。また、スタジアムで結婚式を挙げるとか、さまざまなコンベンションをするとか、そのような発想で造ってあるということに非常に驚きました。

もう一つは、ただのハードウェア、つまり、コンクリートの管理維持、そしてピッチの管理維持だけではなくて、そのスタッフの中に9万人規模のスタジアムの企画制作、宣伝、マーケティング、そしてセキュリティーまで担う大きなデパートメントがございました。こういう1つの大きな目標を持って、こういうスタジアムを運営しているということでございます。

我が国立競技場を考えてみると、この2つがいかにすばらしいスタジアムであれ、やはりパリでもロンドンでも都心から約30分～1時間のところに立地しております。それに比べまして、このたびの国立競技場、神宮の森のど真ん中、東京都のど真ん中にございまして、こんな立地条件は、多分、世界の主だった競技場の中でも数少ないのではないかと思っております。

このたび渋谷のヒカリエというミュージカル劇場ができました。また、赤坂にもTBSがやっております赤坂サカスという1つのエンターテインメントの拠点がございます。私

スポーツ、文化の両グループから、必要となる要件を検討していただきまして、その要件を受けた形で施設建築グループが検討を進めましたところでございます。これまでの経緯につきまして、各グループの座長から一言ずつコメントを頂戴したいと思います。

まず、スポーツにおける利活用で、小倉座長、お願ひいたします。

【小倉座長】 私のグループは、スポーツの分野からの新しい国立競技場に求められる条件について検討させていただきました。その具体的な内容につきましては、参考資料1の1ページから4ページにかけまして、項目として22項目について要望を出させていただきました。その要望につきまして、施設建築グループで既にまとめていただいておりますので、後ほどご覧いただければありがたいと思います。

その主要な点、4点だけを申し上げたいと思います。

1つは、新しい国立競技場はラグビー、サッカー、陸上競技が共存できるスタジアムということが前提であります。ワールドカップ、またオリンピック等の世界の主要な大会の開催、また、国内で主として日本一を決定する重要な試合を開催するため、観客にとって魅力的な臨場感あふれるピッチに近い観客席を設置する必要があるというのが1点です。

2点目は、冬場の寒い時期、また、天候の悪いときにも試合を良好な環境で開催するために開閉式屋根を持つスタジアムであっていただきたい。これは、音楽等の文化行事を開催する際に、近隣への騒音を避けるためにも重要であるというふうに考えております。

3番目は、世界の主要な大会では、要求されておりますホスピタリティの機能が極めて高水準であります。この分野では、日本は大変遅れているという状況にありますので、ホスピタリティ機能の充実が必要であると考えています。

最後、4点目ですが、やはりスタジアムは芝生が命であります。スタジアムの評価が芝のでき具合によって決まるというように言われるぐらいですので、芝の育成について必要な太陽光、風、水、温度、そういうものがコントロールできるような環境を整備することが、今回の新しい国立競技場にとって必要であるというのがスポーツのワーキンググループの提案でございます。

よろしくどうぞお願い申し上げます。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

続きまして文化の利活用につきまして、都倉座長、お願い申し上げます。

【都倉座長】 文化グループの座長を務めます都倉でございます。

スポーツ部会と共にテーマがたくさんございます。今の開閉式のドームをぜひお願い

奥村辰三文部科学副大臣、久保公人スポーツ・青少年局長、国土交通省小林昭都市局官房
審議官、日本スポーツ振興センター藤原理事

文部科学省の奥村副大臣ごあいさつ

【河野理事長】 どうもありがとうございます。

自己紹介が遅れましたけれども、日本スポーツ振興センター理事長の河野でございます。
どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、本会議は非公開とさせていただいておりますので、恐れ入りますけれども、報道
関係者の皆様におかれましてはご退場をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたし
ます。

-報道陣退室-

それでは、本日の議事につきましては、お手元の議事次第に沿って進めさせていただき
たいと思います。

それでは、佐藤委員長、よろしくお願ひいたします。

【佐藤委員長】 改めまして、ご多忙の中、ご出席をちょうだいいたしまして、まことに
ありがとうございます。この第2回目の会合に至りますまで、建築、スポーツ、文化各
ワーキンググループの座長の先生方、また、メンバーの皆様方には大変精力的な審議をし
ていただきまして、おかげさまで本日、一定の方向をお示しできる段階になっているわけ
でございます。

早速、審議に入らせていただきますが、次第にございますように、今日は2つのテーマ
がございまして、国立競技場改築に向けた論点の整理と、その論点を受けまして新しい競
技場の基本構想デザインの公募ということについてご審議をお願いいたします。

●事務局（武木本部長）による資料の確認

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

それでは、早速、審議事項1の「論点整理」に入ります。資料の1で、今ご覧いただき
ましたように、各ワーキンググループを精力的に開催していただきました。施設利活用ス

国立競技場将来構想有識者会議（第2回） 議事録

日 時：平成24年7月13日（金）16:00～17:00
場 所：明治記念館 2F 蓼葉の間
出 席：佐藤委員長、安西副委員長、安藤委員（建築グループ座長）、小倉委員（スポーツグループ座長）、都倉委員（文化グループ座長）、遠藤委員、河野委員、鈴木（寛）委員、鈴木（秀）委員、竹田委員、張委員、森委員、秋山氏（石原委員代理）、伍藤氏（烏原委員代理）、
文部科学省 奥村副大臣、久保スポーツ・青少年局長
国土交通省 小林大臣官房審議官
J S C 河野理事長、藤原理事

審議事項1 国立競技場の改築に向けた論点整理について

審議事項2 新国立競技場基本構想デザインの公募について

審議事項3 その他

《以下議事録》

【河野理事長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまより独立行政法人日本スポーツ振興センター国立競技場将来構想有識者会議の第2回を開催させていただきます。本日はお忙しいところご参集いただき、大変ありがとうございます。会を始める前に私のほうから1点だけご報告させていただきますが、日本スポーツ振興センターの英語略は、お手元の資料の背表紙にございますが、JAPAN SPORT COUNCILというふうに変更させていただきました。

本題に入りたいと思います。まず、審議に先立ちまして、本日ご出席いただいたおります委員の先生方をご紹介させていただきたいと思います。

●河野理事長から出席委員の紹介

佐藤禎一委員長、安西祐一郎副委員長、森喜朗委員、遠藤利明委員、竹田恒和委員、張富士夫委員、鈴木秀典委員、安藤忠雄委員、小倉純二委員、都倉俊一委員、烏原光恵委員の代理の伍藤様、石原慎太郎都知事の代理、秋山副知事（委員の紹介は終了）

●河野理事長から列席者の紹介